取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

iQ

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

6-2. カスタマイズ機能

さくいん

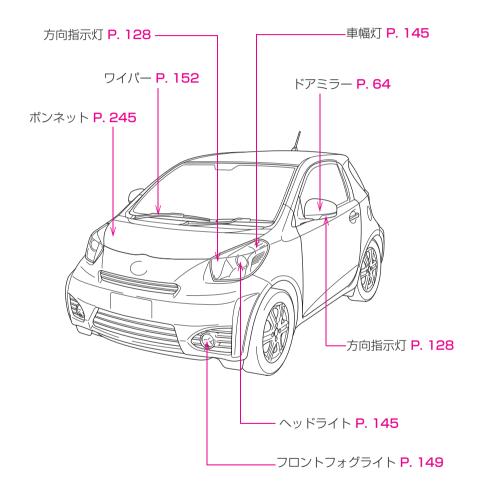
外観

▶フロントフォグライト非装着車

▶フロントフォグライト非装着車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

外観

▶フロントフォグライト装着車

▶フロントフォグライト装着車

方向指示灯 P. 128
制動灯 / 尾灯 P. 145
アンテナ P. 221
給油口 P. 70
リヤウインドウ
デフォッガー P. 188
ドア P. 42
リヤワイパー P. 154

タイヤ
●ローテーション P. 242
●交換 P. 250
●応急修理 P. 308

リヤフォグライト ＊
（右側のみ）P. 149

バックドア P. 45
番号灯 P. 145

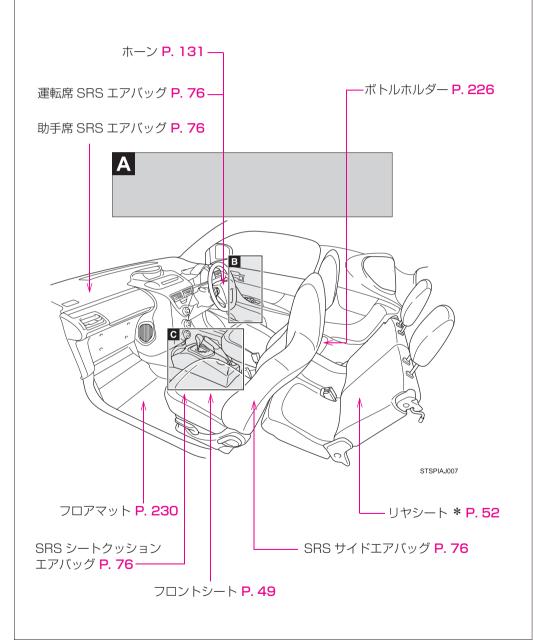
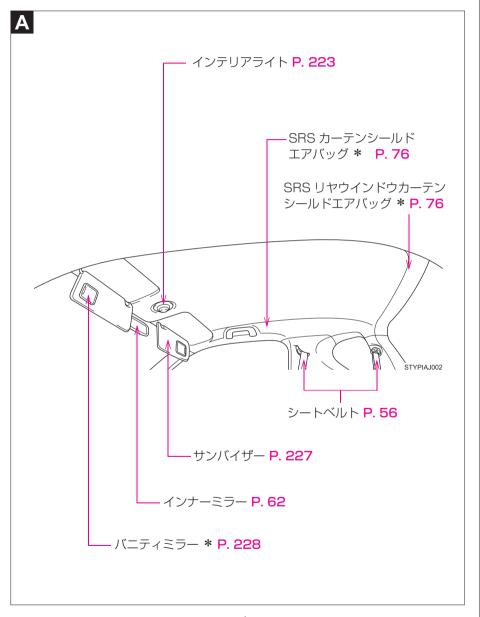
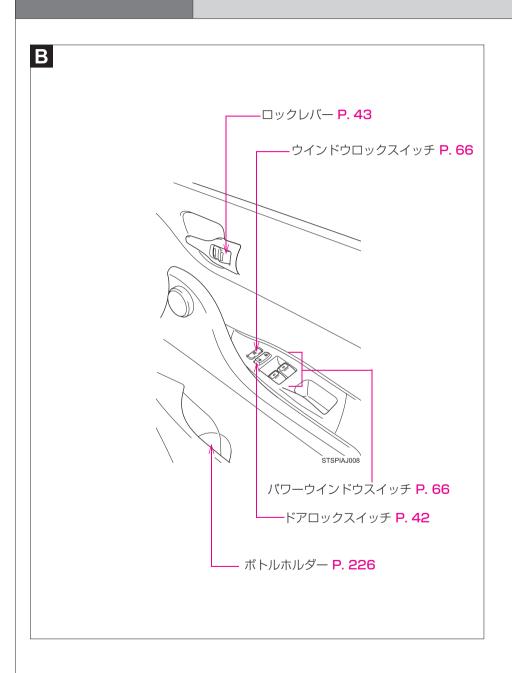
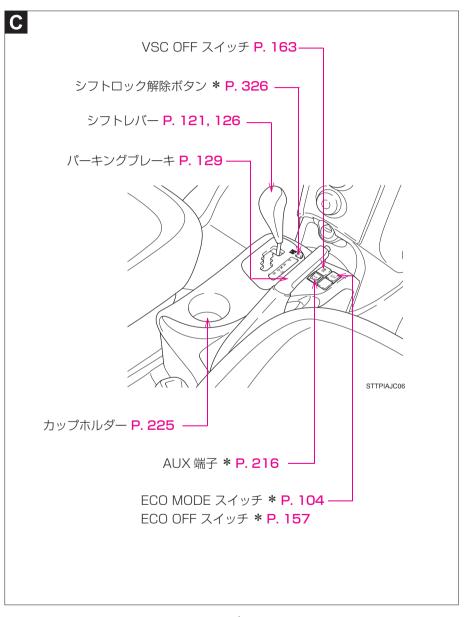
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内

ホーン P. 131
運転席 SRS エアバッグ P. 76
助手席 SRS エアバッグ P. 76
ボトルホルダー P. 226
A
B
C
STSPIAJ007
フロアマット P. 230
リヤシート ＊ P. 52
SRS シートクッション
エアバッグ P. 76
SRS サイドエアバッグ P. 76
フロントシート P. 49

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B
ロックレバー P. 43
ウインドウロックスイッチ P. 66
STSPIAJ008
パワーウインドウスイッチ P. 66
ドアロックスイッチ P. 42
ボトルホルダー P. 226

C

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

A
▶オーディオ装着車
助手席シートベルト非着用警告灯 P. 305
オーディオ P. 191
PASSENGER
STTPIAJC08
▶オーディオ非装着車
助手席シートベルト非着用警告灯 P. 305
PASSENGER
STTPIAJC09

B

▶マニュアルエアコン装着車

マニュアルエアコン P. 174

非常点滅灯スイッチ P. 293

アクセサリーソケット P. 229

リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 188

STTPIAJ022

B

▶オートエアコン装着車

オートエアコン　P. 180

非常点滅灯スイッチ P. 293

AUTO
OFF
88.8
A/C
TEMP
MODE
12V/120W
MAX
STTPIAJ023

アクセサリーソケット P. 229

リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 188

C
クロックセットボタン P. 143
MODE ボタン P. 139
ワイパー&ウォッシャースイッチ P. 152
STTPIAJC10
ハンドル位置調節レバー P. 61
フロントワイパーデアイサースイッチ ＊ P. 190

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

E
オーディオ操作スイッチ P. 191, 218
MODE
PWR
STTPIAJ028

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには ＳＲＳ エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 94)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

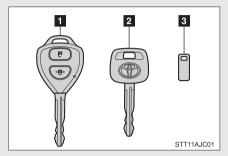
➡スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

1 運転する前に

キー

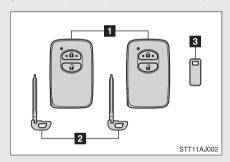
お客様へ以下のキーをお渡しします。

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動（→P. 39）

2 キー（ワイヤレス機能非装着）

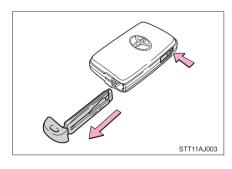
3 キーナンバープレート

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 29）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 39）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す。

使用後はもとに戻し、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 328）

知識

■キーナンバープレート

車内以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→P. 327)

■航空機に乗るときは

航空機にワイヤレス機能装着キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

電子キーは精密機器です。以下のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- 濡らしたり超音波洗浄機などで洗ったりしない
- キーに金属性または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーについて

ワイヤレスキー・電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

注意

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内だと電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

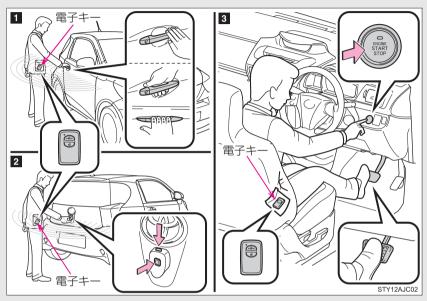
■スマートエントリー＆スタートシステムの故障等で販売店に車両を持っていくときは

車両に付属している全ての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーを全てお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー&スタートシステム＊

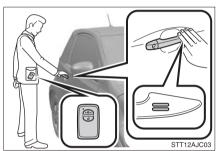
電子キーをポケットなどに携帯するだけで以下の操作がおこなえます。（必ず運転者が携帯してください。）

1 ドアの解錠・施錠　（→P. 30）
2 バックドアの解錠・施錠　（→P. 30）
3 エンジンの始動　（→P. 116）

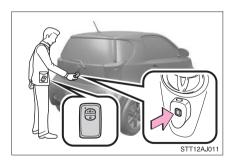
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠・施錠

ハンドルを握って解錠する。

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

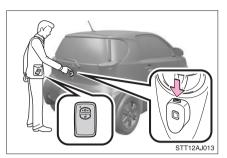
施錠操作後約３秒間は解錠できません。

ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）に触れ施錠する。

バックドアの解錠・施錠

バックドアオープンスイッチを押して解錠する。

バックドアオープンスイッチを約１秒長押しすると、バックドアロックを解除します。

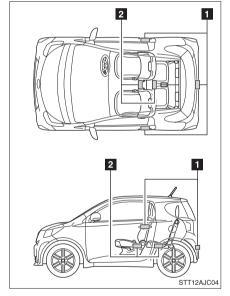
施錠操作後約３秒間は、解錠できません。

車から離れるときは、バックドアを施錠してください。バックドアを閉めても自動的に施錠されません。

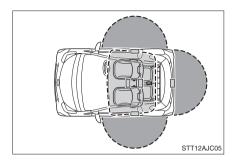
STT12AJ013

ロックスイッチを押して施錠する。

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

STT12AJC04

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。）

:エンジン始動時またはモード切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅（施錠は 1 回、解錠は 2 回）で知らせます。

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは

ドアハンドル上側のロックセンサー部に触れても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時に触れてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリー上がりを防止するため、節電機能が働きます。

●以下の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・ 車の外約 2m 以内にスマートキーを１０分以上放置した。
・ ５日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。

- １４日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は１～２年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 36）
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。以下のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
  - ・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
  - ・作動範囲が狭くなった
  - ・電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
  - ・テレビ
  - ・パソコン
  - ・携帯電話やコードレス電話やその充電器
  - ・電気スタンド
  - ・電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

必ず電子キーを携帯した上でスマートエントリー＆スタートシステムを作動させてください。

■電子キーの検知に関する留意事項

- 車外から操作する場合は電子キーを車に近付けすぎないようにしてください。作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤ってブザーが鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かない場合があります。）

●電子キーが作動範囲内にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・電子キーがインストルメントパネルやフロア上、ドアポケットなどに置かれている場合。

■スマートエントリー＆スタートシステム特有の留意事項

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●電子キーが作動範囲内にある場合に洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約３０秒後に自動的に施錠されます。

●電子キーが車室内または車に近い位置にある場合にワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できない場合は、ワイヤレスリモコンを使って解錠してください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーに触れた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーに触れてください。

●ロック操作は、連続で２回まで有効で、３回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作を繰り返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（キーの盗難に注意してください）。

●車室内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、車室外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すればブザーはとまります。

- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアに当たる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。解錠されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、再度解錠操作をして、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P. 350）

■解錠操作時のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→P. 306)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■車両バッテリー脱着時の留意事項

●車両バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●車両バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリー脱着前の“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時はとくに注意してください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの施錠、解錠：→P. 328

●エンジン始動：→P. 328

■電池が切れたときは

→P. 283

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（車両カスタマイズ機能一覧 →P. 350）
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にした場合のドアの施錠・解錠、エンジンの始動方法等は「電子キーが正常に働かないときは」（→P. 328）を参照してください。

警告

■電波がおよぼす影響についての警告

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P. 31）から 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器が近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー&スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくは販売店にご相談ください。

注意

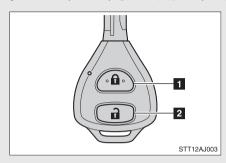
■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 328)

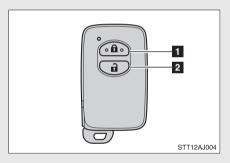
- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器が電子キーの近くにあるとき
- 電子キーが以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - アルミ箔を使用したタバコの箱
  - 金属製の財布やカバン
  - 小銭
  - カイロ
  - CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、以下のような製品と同時に携帯しているとき
  - 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
  - パソコンや携帯情報端末 (PDA 等)
  - デジタルオーディオプレーヤー
  - ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

知識

■作動の合図

ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）と非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■電池の消耗について

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します。）ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P. 283）

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 33

■解錠操作のセキュリティ機能

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 35

■電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

→P. 328

■電池が切れたときは

→P. 283

■機能が正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

以下のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

●近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器、大型ディスプレイがあるとき

●無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●複数のワイヤレスキーが近くにあるとき

●ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき

●ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 38

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 350)
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ドア

スマートエントリー&スタートシステム ＊ やワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

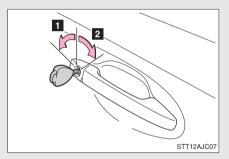
■ スマートエントリー&スタートシステム＊

→P. 30

■ ワイヤレス機能

→P. 39

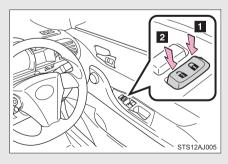
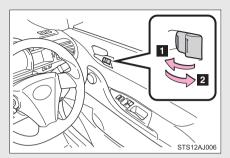
■ キー

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドア解錠
2 全ドア施錠

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→P. 328)

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側から施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする。

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める。

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーがエンジン スイッチに挿してあるときは施錠されません。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは以下の方法で解錠・施錠および開けることができます。

■ バックドアの解錠・施錠

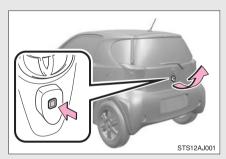
▶ ドアロックスイッチ
→P. 42

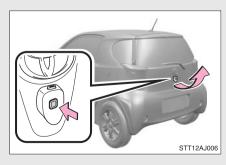
▶ スマートエントリー＆スタートシステム
→P. 30

▶ ワイヤレス機能
→P. 39

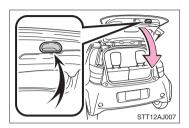
▶ キー
→P. 42

■ 外からバックドアを開けるには

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる。

知識

■バックドアを閉めるときは

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

■**お子さまを乗せているときは**

- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

■**バックドアの操作にあたって**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

警告

■バックドアの操作にあたって

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

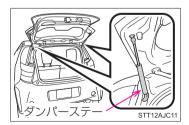
●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

●ダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、ダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

注意

■ダンパーステーについて

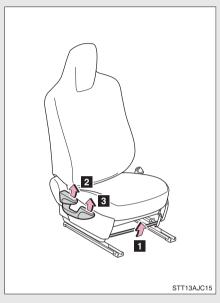
バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をダンパーステーのロッド部（棒部）に付着させない

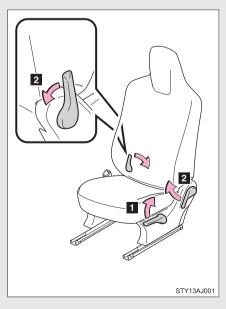
●ロッド部を軍手などで触れない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない

●ダンパーステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

▶運転席

1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 上下位置調整

▶助手席

1 前後位置調整
2 リクライニング調整

リヤシートへの乗り降り

手順 1 助手席のリクライニング調整レバーを引く。

背もたれをいっぱいまで前に倒すと、シートを前後に移動させられるようになります。

手順 2 シートをいっぱいまで前に移動させる。

乗り降りしたあとは、背もたれを起こしてシートを固定させてください。
背もたれを起こした位置でシートが固定されます。

警告

■シート調整について

- シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
とくにシートを後ろに下げるときは、リヤシートの乗員の足を挟んだりしないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害のおそれがあり危険です。
- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■走行中の警告

- 走行中にシートを操作しないでください。
- フロントシートの下に物を置かないでください。
急ブレーキ時などに物が飛び出したりして、ペダルの操作をさまたげたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**リヤシートへの乗り降りについて**

●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●リヤシートへ乗り降りするときは、シートレールの溝につまづいて転倒しないように注意してください。

●リヤシートへ乗り降りしたあとは、必ずフロントシートを固定させてください。

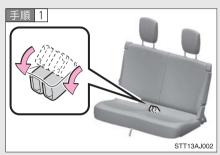
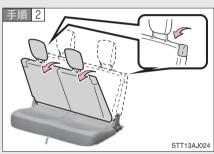
■**リヤシートからのフロントシートの操作について**

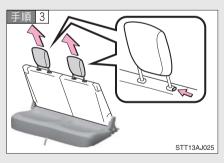
以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

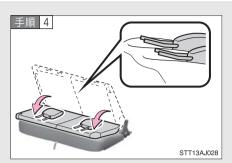
●フロントシートに乗員がいるときは操作をしない。

●走行中にフロントシートを操作しない。

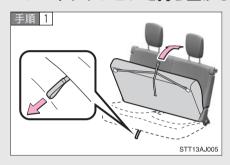
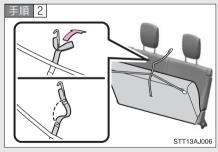
リヤシート*

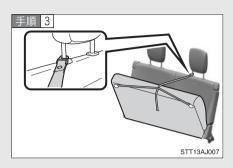
■ 背もたれを倒すときは

シートベルトのバックルを格納する。

ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前に倒す。

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。

解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをはずす。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

背もたれをいっぱいまで倒す。

取りはずしたヘッドレストを図のように、シートクッションと背もたれの間に挟んで格納してください。

■ シートクッションを持ち上げるときは

解除バンドを引いてシートクッションを持ち上げる。

はじめに解除バンドを水平に引いてシートクッションのロックを解除し、そのまま上に持ち上げてください。

解除バンドのボタンをはずし、フックを伸ばす。

持ち上げたシートクッションを固定する。

左右どちらかのヘッドレストの支柱にフックをかけて、シートクッションを吊るして固定します。

シートクッションを降ろすときは、バンドをもとの位置に戻してください。

⚠ 警告

■リヤシートを操作するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●走行中にリヤシートを操作しない
- ●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車ではシフトレバーを P、マニュアル車ではシフトレバーを 1 速にする
- ●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- ●倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- ●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■リヤシートについて

シートクッションを持ち上げた状態で、シートクッションに寄りかかったり上に乗ったり、シートクッションの土台部分に乗ったりしないでください。部品が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■シートをもとの位置にもどしたあとは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- ●シートベルトがシート下に挟み込まれていないか確認する

■走行中の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、急ブレーキ時などにシートクッションが不意に倒れたり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●シートクッションを持ち上げた状態で走行しない
- ●リヤシートクッション下には、転がりやすいものや凹面より高さのあるものを入れない

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

注意

■リヤシートを操作するときは

リヤシートを操作するときは、フロントシートに当たらないことを確認してください。
リヤシートを無理に操作すると、シート表皮に傷が付いたり、シートが故障するおそれがあります。

シートベルト

すべての乗員は走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

STT13AJC02

● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

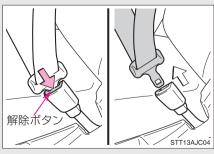
● ねじれがないようにする

■ 着け方、はずし方

STY13AJC01

固定

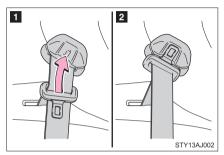
“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

STT13AJC04

解除

解除ボタンを押します。

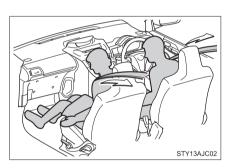
シートベルトを使用しないとき（リヤ席*）

リヤ席シートベルトを使用しないときは、以下の方法でシートベルトホルダーにプレートをかけて固定してください。

STY13AJ002

1 プレートを折り返す。

2 シートベルトホルダーにプレートをかける。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

STY13AJC02

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを瞬時に巻き取り、乗員の拘束効果を高めます。

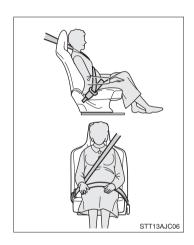
前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停車や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、ベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 56)

妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルト（3 点式シートベルト）は確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 94)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 86)

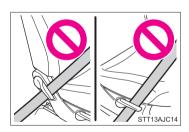
■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**シートベルトの着用について**

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一つにつき一人で使用する
  お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する
- シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

- シートベルトはリクライニング調整レバーなどの下に入らないように着用する

■**お子さまをのせるときは**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

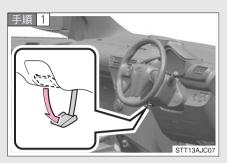
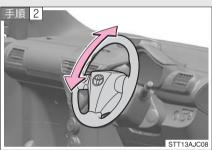
●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる。

ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする。

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

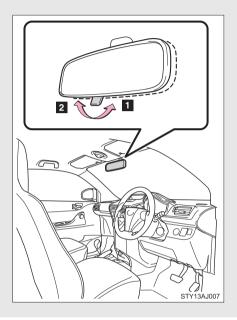
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

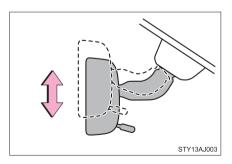
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時

2 防眩時

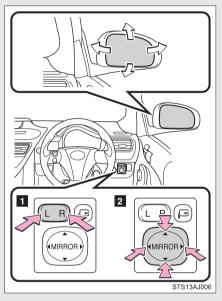
上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

警告

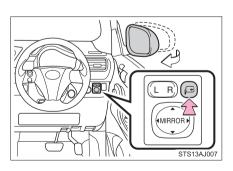
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度を調整できます。

1 ミラーを選ぶ
（L：左、R：右）

2 スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが " ACC " または " ON " のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

" エンジン スタート ストップ " スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

●ミラーの調整をしない

●ミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手を触れないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

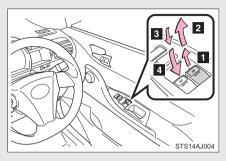
注意

■ミラーが凍結したとき

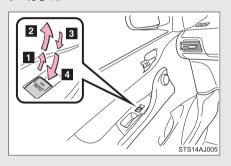
ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、温水をかけて解氷してください。

パワーウインドウ

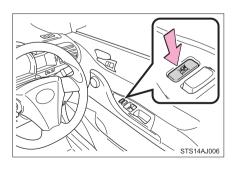
スイッチでドアガラスを開閉できます。

▶運転席

1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

▶助手席

1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押して助手席のドアガラスを作動不可にする。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードのとき

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF （または エンジン スイッチ “ LOCK ”）後の作動（運転席のみ）

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ACC ” または “ LOCK ” にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、またはOFFにしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- ●車を停止し、エンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- ●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ **ドアガラスを開閉するときは**

以下のことをお守りください。

- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

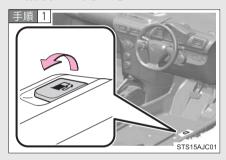
ドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてください。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

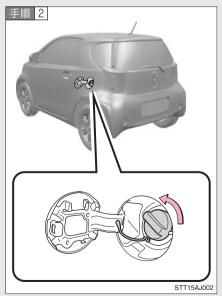
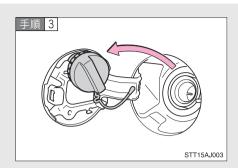
ドアとドアガラスを閉め、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてください。

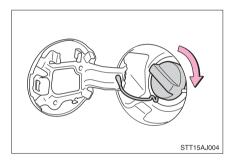
■ 給油口の開け方

手順 1

STS15AJC01

給油口オープナーを引いて、給油口を開ける。

手順 2

STT15AJ002

キャップをゆっくりまわして開ける。

キャップをハンガーにかける。

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■燃料タンク容量（参考値）

32 L

■燃料計について

１回の給油量が 10 L より少ないときは、燃料計が正しく表示されない場合があります。

警告

■給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●ノッキングが発生する

●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム＊

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属性のものに接したり、覆われている
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているもしくは接近している
- ●引っかかり等により、電気式ステアリングロックが施錠されたままのとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 49）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする（→ P. 49）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 61）

5 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 56）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

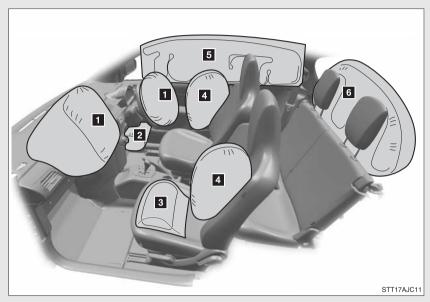
●フロントシートの下に物を置かないでください。
物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと合わせて乗員への衝撃を緩和させます。

▶フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

3 SRS シートクッションエアバッグ
（助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

4 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

5 SRS カーテンシールドエアバッグ*
（フロント席とリヤ席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和）

6 SRS リヤウインドウカーテンシールドエアバッグ*
（リヤ席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

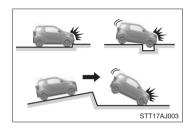
■SRS エアバッグが作動するとき (SRS リヤウインドウカーテンシールドエアバッグ)

SRS リヤウインドウカーテンシールドエアバッグは、後方から強い衝撃を受けた場合に作動します。

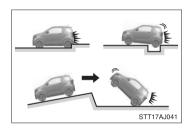
■衝突以外で作動するとき

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

▶フロント SRS エアバッグ

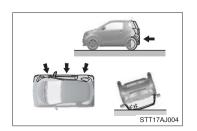
STT17AJ003

- ●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

▶SRS リヤウインドウカーテンシールドエアバッグ

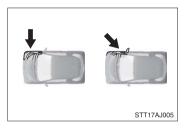
STT17AJ041

- ●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

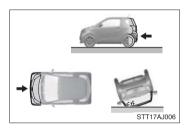
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

STT17AJ004

- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、車内部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●車内部分以外の側面への衝撃

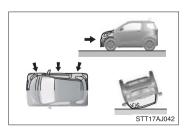
●斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき
（SRS リヤウインドウカーテンシールドエアバッグ）

SRS リヤウインドウカーテンシールドエアバッグは、前方や側面からの衝撃、横転、または低速での後方からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突

●側面からの衝突

●横転

■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

STT17AJ007

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

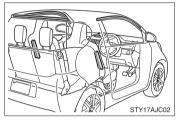
STT17AJ008

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

STT17AJ043

●SRS リヤウインドウカーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の後部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

STT17AJC13

●ハンドルのパッド部分や助手席SRSエアバッグが内蔵されている付近のダッシュボード、運転席側インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS シートクッションエアバッグが内蔵されている助手席のシートクッション表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント･リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS リヤウインドウカーテンシールドエアバッグが内蔵されているリヤルーフヘッドライニング部、リヤピラー部が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合はとくに危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをお勧めいたします。（→P. 94）

STY17AJ009

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

STY17AJ010

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

STY17AJ011

●ドアやフロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

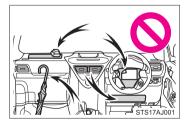
STY17AJ012

●助手席でドアガラスに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

●リヤシートでサイドウインドウガラスに向かってひざをついたりしない。

STT17AJC54

●リヤシートで後ろを向いてひざをついたりしない。

STS17AJ001

●ダッシュボード、ステアリングパッド、運転席側インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

●助手席のシートクッションの前や上に荷物を置かない。

●荷物をシートベルトで助手席のシートクッションの上に固定しない。

●ドア、フロントウインドウガラス、ドアガラス、サイドウインドウガラス、リヤウインドウガラス、フロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。

●キーに重いもの、とがったもの、硬いものを付けない。

●SRS サイドエアバッグ、SRS シートクッションエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとにもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

警告

■**SRS エアバッグについて**

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロント・リヤピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造

●フロントフェンダー、フロントバンパー、車両車内側面部の修理、改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機能を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの種類

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0	：10 kgまで
グループ0^+	：13 kgまで
グループⅠ	：9 ～ 18 kg
グループⅡ	：15 ～ 25 kg
グループⅢ	：22 ～ 36 kg

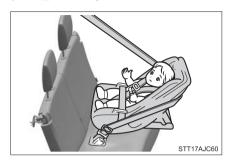
この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介しています。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具に記号になります。

▶ベビーシート

STT17AJC60

ECE　R44 基準のグループ 0、0^{+} に相当

▶チャイルドシート

STT17AJC61

ECE　R44 基準のグループ 0^{+}、Ⅰに相当

▶ジュニアシート

STT17AJC04

ECE　R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表 （シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置 （または他の場所）	
	フロントシート	リヤシート*
	助手席	左右席
0 （10 kg まで）	×	U
0^{+} （13 kg まで）	×	U
Ⅰ （9 ～ 18 kg）	前向き　UF 後向き　×	U
Ⅱ （15 ～ 25 kg）	UF	U
Ⅲ （22 ～ 36 kg）	UF	U

● 上表に記入する文字の説明

U: この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

X: 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 （ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート*
			左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10 kg まで）	E	ISO/R1	×
0^{+}（13 kg まで）	E	ISO/R1	×
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18 kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF ※
	B1	ISO/F2X	IUF ※
	A	ISO/F3	IUF ※
Ⅱ（15 ～ 25 kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36 kg）		（1）	×

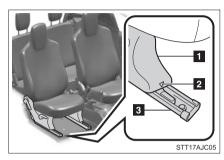
● 上表に記入する文字の説明

（1）:サイズ等級表示 （A から G） のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

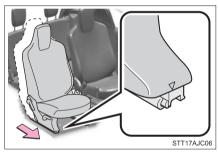
IUF :この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向きの子供専用シートに適しています。

X: ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

※ ISOFIX 子供専用シートをリヤシートに取り付ける際は、三角マークのついたカバーによりシートレールが完全に隠れるように、フロントシート位置を調整してください。

1 カバー

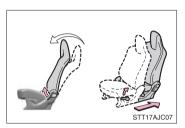
2 三角マーク

3 シートレール

カバーについている三角マークの位置を上から見てシートレールが完全に隠れるところまでフロントシートを前方へ移動させる。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

知識

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●背もたれを直立状態にする

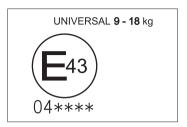
●シートをいちばん後ろに下げる

■汎用 ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

●ISOFIX 対応子供専用シートをすでにお持ちの場合
ご使用の前に 2006 年 10 月 1 日施行の新保安基準に適合していることを確認してください。
この車に標準装備している ISOFIX 固定バーは新保安基準に適合した ISOFIX 対応子供専用シート専用です。それ以外のものや、以前の基準の ISOFIX 対応子供専用シートは取り付けられません。
新保安基準適合品には下のようなマークがついています。

汎用（ユニバーサル）ISOFIX チャイルドシートの取り付け装置の位置を示す表示

汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

アルファベットや数字はサイズ等級をあらわします。

汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、後ろには対象となるお子さまの体重範囲を表示します。

● 新保安基準適合の ISOFIX 対応子供専用シートをお求めの際には「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 89）をご覧になり、お子さまの体重の「質量グループ」、から座席に適合する「サイズ等級」と「固定具」の子供専用シートをお選びください。
例：お子さまの体重が 15kg で、汎用の ISOFIX 対応子供専用シートをお求めの場合、質量グループⅠ（9 ～ 18kg）の車両 ISOFIX 位置に IUF の表示がある A-ISO/F3、B-ISO/F2、B1-ISO/F2X のチャイルドシートをお求めください。

A-ISO/F3：お子さまを前向きに乗車させる大型のチャイルドシート
B-ISO/F2：お子さまを前向きに乗車させる小型のチャイルドシート
B1-ISO/F2X：お子さまを前向きに乗車させる小型のチャイルドシートで、B-ISO/F2 とは別形状のチャイルドシート

■ 子供専用シートの選択、使用について

● お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

● 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リアシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは、子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

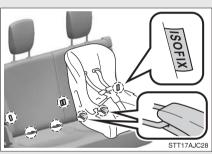
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。(→P. 95、96)ゆるめた状態で車室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管してください。

チャイルドシートの取り付け

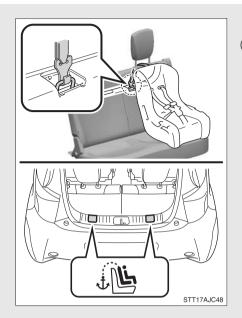
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。

STT17AJC62

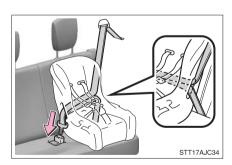
シートベルトによる取り付け
(→P. 95)

STT17AJC28

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー* (→P. 96)

リヤシートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています。)

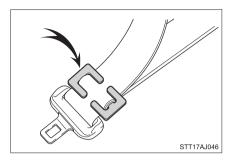
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

トップテザーアンカー*
(→P. 96)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはバックドア開口部に装備されています。

シートベルトで固定する

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

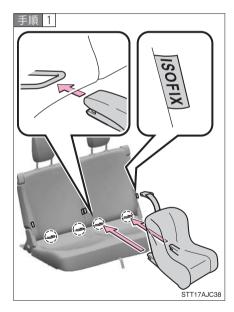
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

STT17AJ046

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

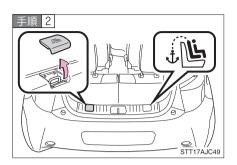
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

STT17AJC38

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける。

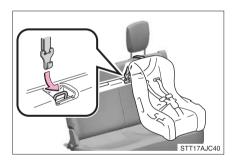
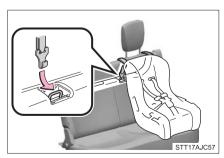
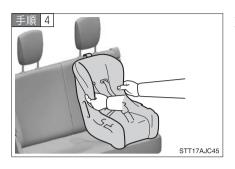
固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシート付属の取扱説明書にしたがってください。

トップテザーアンカーのフタを取りはずす。

はずしたフタはなくさないように、保管しておいてください。

手順 3 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトをピンと張り、フックとヘッドレストがしっかり固定されているか確認します。

▶テザーベルト A

▶テザーベルト B

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停車の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。

●4 人乗り車：お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。事故統計によれば、お子さまはフロント席よりリヤ席に正しく拘束されているほうが安全です。

●2 人乗り車：お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロント・リヤピラー、ルーフサイドレール、リヤルーフヘッドライニング付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルからシートベルトがはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

警 告　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。
また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な損害に
至るおそれがあります。

STT17AJC58

●助手席にはチャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。
後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。合わせてご覧ください。

STY17AJ014

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席をいちばん後ろに下げて取り付けてください
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと急ブレーキや事故の際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

運転するときに

2

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行してください。

■ エンジンをかける（→P. 113、116）

■ 発進する

▶オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。（→P. 121）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 129）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

▶マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする。（→P. 126）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 129）

手順 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

▶オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。（→P. 121）

▶マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にする。（→P. 126）

■ 駐車する

▶ オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。 (→P. 129)

手順 3 シフトレバーを P にする。 (→P. 121)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。

手順 4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ LOCK ”にしてエンジンを停止する。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしてエンジンを停止する。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。 (→P. 129)

手順 3 シフトレバーを平地や上り坂では 1 速、下り坂では R にする。 (→P. 126)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。

手順 4 エンジンスイッチを“ LOCK ”にしてエンジンを停止する。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

▶オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

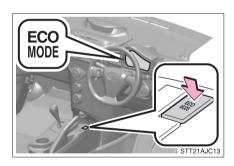
手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

▶マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、クラッチペダルを踏んだままシフトレバーを1速にする。

手順 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

エコドライブモードの選択（オートマチック車）

エアコンの性能を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。スイッチを押すと、メーター内のECO MODE表示灯が点灯します。

もう一度押すと、エコドライブモードが解除され、ECO MODE表示灯が消灯します。

知識

■雨の日の運転について

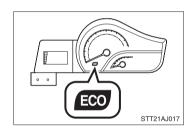
●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などを、樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転（オートマチック車）

エコドライブインジケーターランプが点灯すると、環境に配慮したアクセル操作をしていることを知らせます。必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。
（シフトレバーがDのときに、車速が約100 km/h 以下で走行時）

エコドライブインジケーターランプの表示／非表示を設定できます。（→P. 139）

⚠ 警告

■発進するときは（オートマチック車）

ブレーキペダルをしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを操作してください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●走行中に決してシフトレバーをP・R（オートマチック車）またはR（マニュアル車）の位置に動かさないでください。
機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う結果を招くことがあります。

警告

■運転するときは

●走行中はシフトレバーを N にしないでください。
N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●走行中はエンジンを停止しないでください。
パワーステアリングおよびブレーキ倍力装置は、エンジン回転中でないと作動しません。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 121)

●坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。

●走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。

●重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての乗員が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキ時や、旋回時などに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがＰ（オートマチック車）またはＮ以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがＰ（オートマチック車）またはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰ（オートマチック車）または平地や上り坂では１速、下り坂ではＲ（マニュアル車）にしてエンジンを停止し施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色、無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- ●換気が悪い場所では、エンジンを停止してください。
  とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- ●排気管はときどき点検してください。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ブレーキをかけるときは

- ●万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- ●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

■万一脱輪したときは

前輪のいずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■運転中は

▶オートマチック車

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

▶マニュアル車

●クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。

●クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。

・クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない

・1速以外での発進は避ける

・坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままで走行しない

●車がまだ動いているときにRに入れないでください。
クラッチ・トランスミッション・ギアに損傷を受けるおそれがあります。

■駐車するときは（オートマチック車）

必ずシフトレバーをPにしてください。Pにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■**きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドインジケーター）**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は、タイヤの損傷の程度を確認してください。

●修理可能な場合は、応急修理してください。(→P. 308)

●修理不可能な場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

■**冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

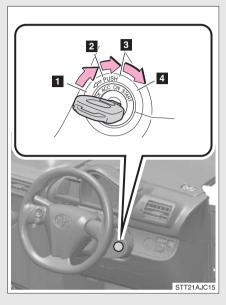
●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジンオイルやトランスアクスルフルードなどの量および質の変化

●各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

■ エンジン スイッチの位置

1 “ LOCK ” (OFF)

- ステアリングロックがかかります。
- キーを抜き挿しすることができます。（オートマチック車は、シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しできます）

2 “ ACC ”

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 “ ON ”

すべての電装品が使用できます。

4 “ START ”

エンジンが始動できます。

■ エンジンのかけ方

▶オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む。

手順 4 エンジン スイッチを “ START ” の位置にまわす。

▶マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーが N の位置にあることを確認する。

手順 3 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む。

手順 4 エンジン スイッチを “ START ” の位置にまわす。

知識

■キーを " ACC " から " LOCK " にまわすには

手順 1 シフトレバーが P（オートマチック車）または N（マニュアル車）の位置にあることを確認する。

手順 2 キーを押し込みながら " LOCK " までまわす。

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、キーをまわしてください。

■エンジンが始動しないときは

→P. 324

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが " ACC " または " LOCK " のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“ LOCK ”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ ACC ”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して以下の操作を行うことで、エンジン始動またはモードを切り替えることができます。

■ エンジンのかけ方

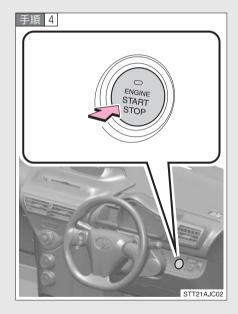
手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む。

スイッチ上の表示灯が緑色に点灯します。

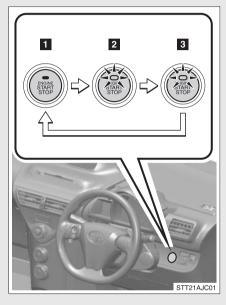
緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す。

完全にエンジンが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。

どのモードからでもエンジンを始動できます。

■ “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まずに“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります。）

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。
シフトレバーが P 以外のときは OFF になりません。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
スイッチ上の表示灯が橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
スイッチ上の表示灯が橙色に点灯します。

知識

■ステアリングロックについて

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してください。

ステアリングロックが解除されていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの表示灯が緑色に点滅します。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■エンジンが始動しないときは

→P. 324

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上の表示灯が橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが自動で OFF になります。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの操作について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを操作するときは、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切り替えやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■クランキングホールド機能

エンジン始動操作をしてすぐ手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大 30 秒間保持します。
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で 30 秒間です。約 30 秒間経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■電子キーが正常に働かないときは

→P. 328

■電子キーの電池の消耗について

→P. 33

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 283

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 38

■ご留意いただきたいこと

→P. 33

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンストなどで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に “ エンジン スタート ストップ ”スイッチに触れないでください。走行中にエンジンが停止すると、予期せぬ事故につながる可能性があります。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

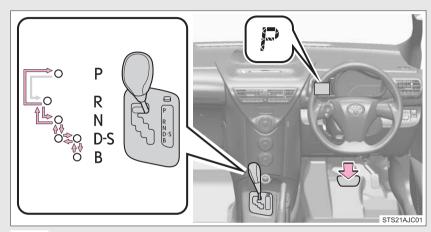
■“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの操作について

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ操作時に引っ掛かりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかに販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション＊

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

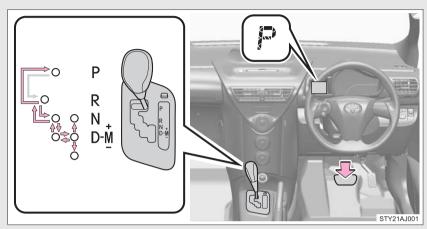
■ シフトレバーの動かし方

▶ 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード非装着車

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチが“ ON ”のとき、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D の間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ ７速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチが“ ON ”のとき、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

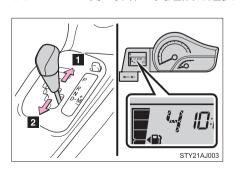
P と D の間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード非装着車	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※	
M		7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行
S	坂道走行	
B	急な下り坂走行	

※燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切り替え（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車）

シフトレバーを M ポジションにすると、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切り替わります。シフトレバーの操作で思い通りの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーの“−”側または“+”側の操作で変速段を選択することができます。

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

1～7のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 326

■7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時の自動変速について

変速段を固定して走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、現在の変速段から自動的に 1 段シフトアップ、またはシフトダウンされます。

■シフトダウン制限警告ブザー（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、操作してもシフトダウンできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■シフトレバーを M にしても、M 表示灯が点灯しないときまたは点滅したときは（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車）

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■M ポジションで走行中に停車したときは（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード装着車）

●停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。

●停車後、走行するときは M1 からの発進となります。

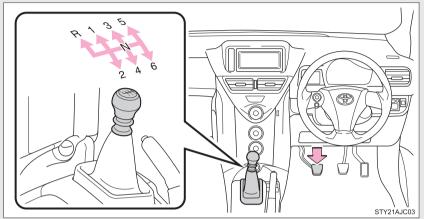
●停車時は M1 に固定されます。

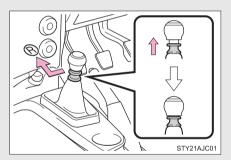
警告

■滑りやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

マニュアルトランスミッション*

■ シフトレバーの動かし方

クラッチペダルをしっかり踏みシフトレバーをゆっくり操作します。

■ R へのシフトのしかた

プルカラーを引き上げたままシフトレバーを R に入れる。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が以下に記載している数値をこえないようにしてください。

(km/h)

シフト位置	最高速度
1	32
2	60
3	87
4	105

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になるおそれがありますので注意してください

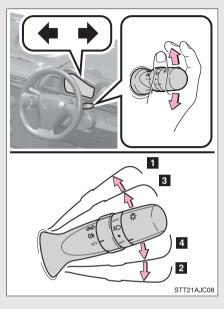
注意

■トランスミッションの損傷を防ぐために

●クラッチペダルを踏まずにシフトレバーを R に入れないでください。

●R へシフトするとき以外は、プルカラーを上へ引かないでください。

●R へシフトするときは、車が停止した状態でおこなってください。

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

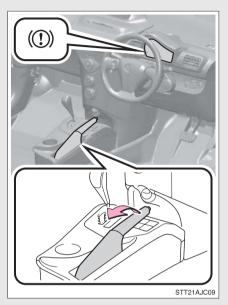
▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが " ON " のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
" エンジン スタート ストップ " スイッチがイグニッションONモードのとき

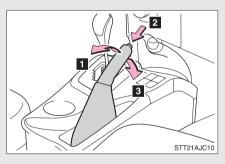
■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

■ パーキングブレーキをかける

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引き上げる。

ブレーキ警告灯が点灯します。

■ パーキングブレーキを解除する

1 レバーを少し引き上げる

2 ボタンを押す

3 完全にレバーを降ろす

知識

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 303

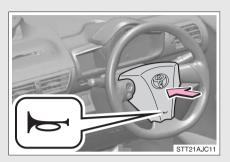
■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 169)の記載を参照してください。

⚠注意

■走行前の注意

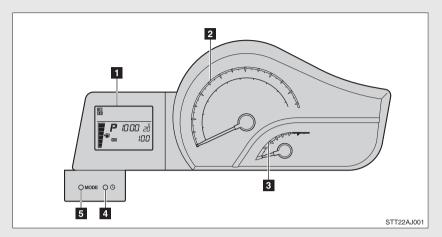
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの（ホーンマーク）周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンがならない場合があります。（→P. 61）

計器類

1 マルチインフォメーションディスプレイ
(→P. 138)

2 スピードメーター
車両の走行速度を示します。

3 タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。

4 クロックセットボタン
(→P. 143)

5 MODE ボタン
オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整画面／アイドリングストップ時間＊／燃費表示の切り替えができます。
(→P. 139)

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

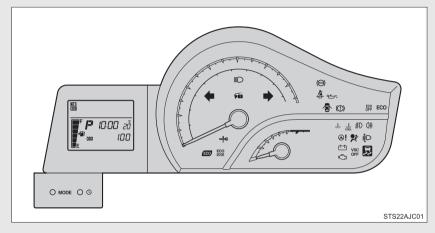
⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 高水温の警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。(→P. 334)

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶メーター

▶センターパネル （オーディオ装着車）

▶センターパネル　（オーディオ非装着車）

■表示灯

システムの作動状況を表示します。

 方向指示表示灯（→P. 128）

 ヘッドライト上向き表示灯（→P. 146）

＊ フロントフォグライト表示灯（→P. 149）

 リヤフォグライト表示灯（→P. 149）

※1､2 スリップ表示灯（→P. 162）

※1 VSC OFF　VSC OFF 表示灯（→P. 163）

＊※1 エコドライブインジケーターランプ（→P. 105,142）

＊ ECO MODE　ECO MODE 表示灯（→P. 104）

＊※1 ECO　ECO 表示灯（→P. 156）

＊※1 ECO OFF　ECO OFF 表示灯（→P. 156）

低水温表示灯

＊ セキュリティ表示灯（→P. 74）

＊ シフトポジション表示（→P. 121）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 303)

※1　作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2　表示灯はシステムが作動しているときに点滅します。(→P. 162)

※3　システムが故障したときにスリップ表示灯は点灯し、VSC OFF 表示灯は点滅します。

※4　1回の給油量が 10 L より少ないときは、燃料計が正しく表示されない場合があります。

※5　オーディオ装着車

※6　オーディオ非装着車

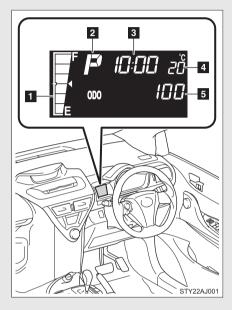
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、以下のような情報を表示します。

1 燃料計

燃料残量を示します。

2 シフトポジション表示*
(→P. 121)

現在選ばれているシフトの位置を示します。

3 時計 (→P. 143)

現在の時刻を表示します。

4 外気温表示

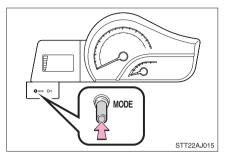
外気温を表示します。

－ 40℃～ 50℃の間で表示します。

5 トリップインフォメーション
(→P. 139)

オドメーター、トリップメーター、メーター照度調整画面、アイドリングストップ時間*や燃費など走行に関する情報を表示します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

表示切り替え

表示を切り替えるには MODE ボタンを押します。

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ※1

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーターA の表示中にMODE ボタンを 1 秒以上押します。

● トリップメーター B ※1

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーターBの表示中にMODE ボタンを 1 秒以上押します。

● メーター照度調整画面（尾灯点灯時のみ表示されます）

照度を調整するには、メーター照度調整画面の表示中に MODE ボタンを 1 秒以上押します。

● 瞬間燃費、エコドライブインジケーターゾーン表示*

▶オートマチック車

現在の瞬間燃費とエコドライブインジケーターゾーン表示を表示します。

▶マニュアル車

現在の瞬間燃費を表示します。

● 給油後平均燃費※2、エコドライブインジケーターゾーン表示*

▶オートマチック車

燃料を補給してからの平均燃費とエコドライブインジケーターゾーン表示を表示します。

▶マニュアル車

燃料を補給してからの平均燃費を表示します。

● アイドリングストップ時間*

エンジンスイッチを“ ON ”から“ LOCK ”にするまでのアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

● 総アイドリングストップ時間*

リセットしてからのアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジンの停止時間）を通算で表示します。

リセットするには、総アイドリングストップ時間表示中に MODE ボタンを 1 秒以上押します。

● エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面*

エコドライブインジケーターランプの点灯／消灯をキャンセルするには、エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ画面表示中に MODE ボタンを 1 秒以上押します。

● 始動後平均車速

エンジンを始動してからの平均車速を通算で表示します。

※ 1: 区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

※ 2: 1 回の給油量が 10 L より少ないときは、給油後平均燃費が正しく表示されない場合があります。

2

運転するときに

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

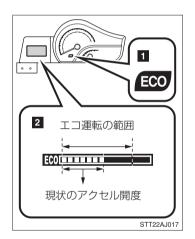
■外気温度表示について

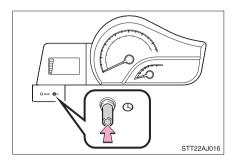
●外気温の測定が正しく行われないときは「ーー℃」と表示されます。

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、表示切替が遅くなることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20 km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入口付近など）

■エコドライブインジケーターゾーン表示について（オートマチック車）

環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。エコ運転中は、エコドライブインジケーターランプ（1）が点灯します。
アクセルの踏み過ぎなど、エコ運転の範囲を超えた場合には、エコドライブインジケーターゾーン表示（2）の右側が点滅し、エコドライブインジケーターランプが消灯します。
（シフトレバーがDのときに、車速が約 100 km/h 以下で走行時）

時計の調整

手順 1 クロックセットボタンを押し続けて、分表示を点滅させる。

(時計表示の点滅中に、操作をしないまま約 10 秒が経過すると、もとの時計表示にもどります)

手順 2 分表示の点滅中にクロックセットボタンを押して“分”を設定する。

“分”を設定したら、クロックセットボタンから手を離します。
約 5 秒経過すると、時表示が点滅します。

手順 3 時表示の点滅中にクロックセットボタンを押して“時”を設定する。

“時”を設定したら、クロックセットボタンから手を離します。
約 5 秒経過すると、もとの時計表示にもどります。

知識

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、以下のデータはリセットされます。

●時計

●トリップメーター

●給油後平均燃費

●アイドリングストップ時間*

●総アイドリングストップ時間*

●始動後平均車速

■時計の正時合わせについて

クロックセットボタンを押すと、正時に合わせることができます。

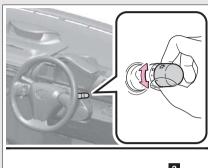
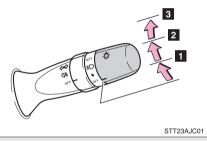
●0 ～ 29 分は切り下げられます。

●30 ～ 59 分は切り上げられます。

(例) 1:00～1:29の場合は1:00に、1:30～1:59の場合は、2:00になります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ライトスイッチ

手動または自動*でヘッドライトなどを点灯できます。

1 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯*

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

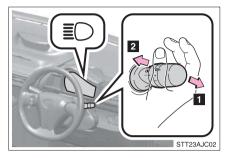
エンジン スイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ハイビームにする

STT23AJC02

1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

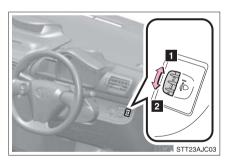
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

STT23AJC03

1 上向きに調整

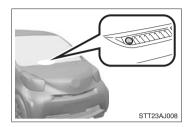
2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件	ダイヤル位置
運転者のみ乗車時	0
運転者と助手席に乗車時	1
全席に乗車時	3
全席に乗車時でかつ荷室満載時	4
運転者のみ乗車時かつ荷室満載時	4.5

知識

■ライトセンサー（コンライト装着車）

STT23AJ008

センサーの上に物を置いたり、センサーをふさぐような物をウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能（コンライト装着車）

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ON ”で、ライトスイッチが OFF 以外の場合に働きます。

- ライトスイッチを OFF にしないまま、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にして運転席ドアを開けると、点灯していた車幅灯などが自動で消灯します。
- 再びライトを点灯する場合は、エンジン スイッチを“ ON ”にするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードで、ライトスイッチが OFF 以外の場合に働きます。

- ライトスイッチを OFF にしないまま、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にして運転席ドアを開けると、点灯していた車幅灯などが自動で消灯します。
- 再びライトを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■ライト消し忘れ警告ブザー

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

コンライト装着車は、ライト消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

●エンジン スイッチが “ LOCK ” のときに働きます。

●ライトスイッチが ● または ≣D の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴ります。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

コンライト装着車は、ライト消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF のときに働きます。

●ライトスイッチが ● または ≣D の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴ります。

■オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■販売店で設定可能な機能

コンライト装着車は、ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 350)

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

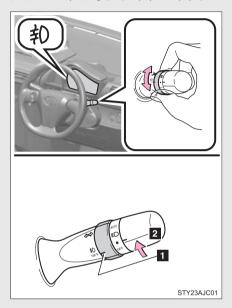
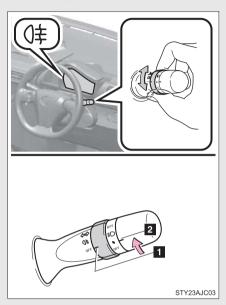
フォグライトスイッチ＊

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

▶ フロントフォグライトスイッチ

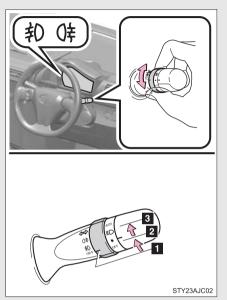
1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ リヤフォグライトスイッチ

1 消灯

2 リヤフォグライト点灯

▶ フロント＆リヤフォグライトスイッチ

1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

3 フロント＆リヤフォグライト点灯

手を離すと ［フロントフォグライトマーク］ の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

知識

■点灯条件

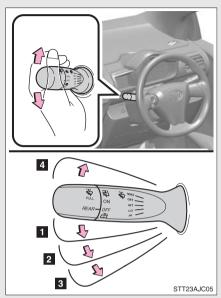
フロントフォグライト：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグライト：リヤフォグライトは、ヘッドライトまたはフロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

●リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

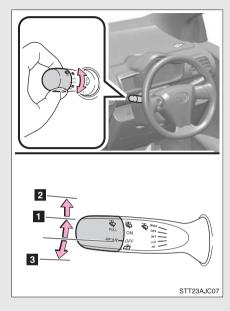
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

1 作動

2 ウォッシャー液を出す（ワイパー作動中）

3 ウォッシャー液を出す（ワイパー停止中）

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

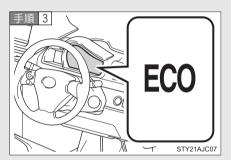
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

Toyota Stop & Start System (SMART STOP) ＊

赤信号や交通渋滞で車両が停止中、燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、クラッチペダルの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

■ エンジンが停止する

手順 1 クラッチペダルを踏んだままブレーキペダルを踏み、車両を完全に停止させる

手順 2 シフトレバーを N にする

クラッチペダルから足を離す

エンジンが停止し、ECO 表示灯が点灯します。

■ エンジンが再始動する

シフトレバーが N であることを確認し、クラッチペダルを踏みます

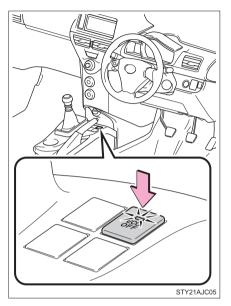
エンジンが再始動します。

ECO 表示灯が消灯し、ECO OFF 表示灯が点灯します。（このとき、クラッチペダルから足を離してもエンジンは停止しません）

車が動き出すと ECO OFF 表示灯が消灯します。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

Stop & Start システムを非作動にするには

STY21AJC05

Stop & Start システムを非作動にするために ECO OFF スイッチを押してください。

ECO OFFスイッチのインジケーターが点灯します。

もう一度 ECO OFF スイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態に戻ります。

■ ECO OFF スイッチの機能について

ECO OFF スイッチはエンジンを停止・再始動するものではありません。

■ Stop & Start システムが非作動のとき

STS21AJ002

車両が停止するたびにクラッチペダルを操作してもエンジンは停止しません（→P. 156)。

ECO OFF 表示灯は点灯します。

■ 以下の状況で ECO OFF スイッチを押したとき

● Stop & Startシステムによりエンジンが停止中、ECO OFFスイッチを押してもエンジンは再始動しません。シフトレバーが N であることを確認し、クラッチペダルを踏んでエンジンを再始動させてください。(→P. 156)
次に車両が停止したときに（Stop & Start システムが非作動になる）、Stop & Start システムによってエンジンは停止しません。

● Stop & Startシステムが非作動のとき、もう一度ECO OFFスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態に戻りますが、エンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに（Stop & Start システムが作動可能状態に戻る）、Stop & Start システムによって、エンジンが停止します。

知識

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

・ エンジンが十分暖まっているとき
・ バッテリー状態が良好であるとき
・ 運転席ドアが閉まっているとき
・ ボンネットが閉まっているとき
・ バッテリーが適切な温度のとき

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われずに ECO OFF 表示灯が点灯する場合がありますが、異常ではありません。

・ エンジン冷却水温が高すぎるとき
・ 車内温度が高いときに、エアコンを使用しているとき
・ バッテリーが十分に充電されていないとき
・ 渋滞などで、Stop & Start システムによって断続的にエンジンが停止するとき

上記の状況が改善され、次に車両が停止したときに Stop & Start システムが作動可能状態になり、エンジンが停止・再始動します。

■エンジンの自動再始動

Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときは ECO 表示灯が数秒間点灯したあと、クラッチペダルが踏まれていなくてもエンジンが自動的に始動します。

●ポンピングブレーキをする、またはブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき

●エアコンを使用しているとき、またはオンにしたとき

●バッテリーが十分に充電されていないとき

●傾斜などで車両が動き出したとき

■Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを ECO OFF スイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを“ LOCK ”にまわして 3 秒以上保持してから“ START ”にまわすことによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態に戻ります。

■Stop & Start システム保護機能

大音量でオーディオを使用しているとき、Stop & Start システムを保護するためにオーディオを自動的にオフにする場合があります。

そのような状態になった場合は、エンジンスイッチを “ LOCK ” にまわして、3 秒以上保持してから “ ACC ” または “ ON ” にまわすことによってオーディオを再開させてください。

■ボンネットを開けたときは

Stop & Start システムによるエンジンが停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。エンジンスイッチでエンジンを始動させてください。

■警告音について

Stop & Startシステムによりエンジンが停止中、次のようになったときはECO表示灯が点滅し、警告音が鳴ります。

●運転席ドアが開いたとき

●クラッチペダルを踏んでいない状態で、シフトレバーを N 以外にいれたとき

■ECO 表示灯が点滅したままのときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■エアコンを使用しているとき

アイドリングストップ時間が短くなる場合があります。エアコンは必要なとき以外はオフにしてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中、ウインドウガラスが曇ったとき

シフトレバーが N にあることを確認し、クラッチペダルを踏んでエンジンを再始動してください。そして A/C を押してエアコンを作動させ、吹き出し口切り替えダイヤルを に切り替えて曇りを取ってください。

断続的にウインドウガラスが曇るときは、ECO OFF スイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■アイドリングストップ時間表示と総アイドリングストップ時間表示

→P. 139

⚠ 警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中は、シフトレバーを N にしたまま、ブレーキペダルを踏むかパーキングブレーキをかけてください（ECO 表示灯が点灯しているあいだ）。
  エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、車から離れないでください（ECO 表示灯が点灯しているあいだ）。
  エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

●換気が悪い場所では、Stop & Start システムによってエンジンが停止されないことを確認してください。
エンジンが自動的に再始動するため、排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

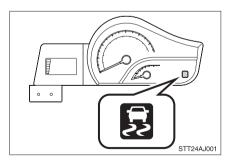
■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング ）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

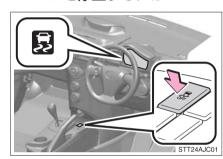
S-VSC、TRC が作動しているとき

STT24AJ001

車両が横すべりしそうになったとき、車輪が空転したときは、S-VSC、TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

S-VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

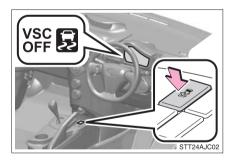
TRC や S-VSC を停止させるには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や S-VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRCを停止するにはスイッチを押す。

スリップ表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■ TRC と S-VSC を停止するには

TRC と S-VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し、3 秒以上保持する。

スリップ表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態に戻ります。

知識

■TRC や S-VSC の自動復帰について

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

TRC や S-VSC を作動停止したあと、エンジン スイッチを OFF にすると自動的に TRC と S-VSC は作動可能状態に戻ります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

TRC や S-VSC を作動停止したあと、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と S-VSC は作動可能状態に戻ります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■TRC と S-VSC OFF の作動制限

TRC と S-VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ABS、ブレーキアシスト、S-VSC、TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、オーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

S-VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

⚠ 警告

■TRC や S-VSC を停止させるときは

TRC や S-VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能、S-VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や S-VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS、S-VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - フタのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前輪タイヤ用）を用意してください。

・ タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
（タイヤについて：→P. 348）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは
ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは
パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R 上り坂では 1 速に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

・ 安全に作業できる場所で行う
・ 前 2 輪に取り付ける
・ タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
・ 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方を超える速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急ハンドル、急ブレーキを避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止め（→P. 250）をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

マニュアルエアコン*

エアコンの設定

■ 温度をかえるには

温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす。

A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量をかえるには

風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす。

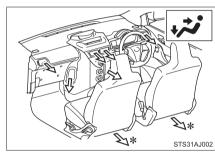
送風を止めるときはダイヤルを０の位置に合わせる。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■吹き出し口を切り替えるには

吹き出し口切り替えダイヤルをまわし、吹き出し口を選ぶ。

ダイヤル位置を各吹き出し口の間にすると、吹き出し口を細かく選択できます。

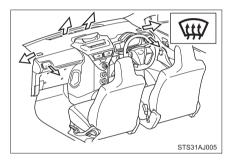
上半身に送風

＊一部車種のみ

上半身と足元に送風

＊一部車種のみ

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

＊一部車種のみ

ガラスの曇りを取る

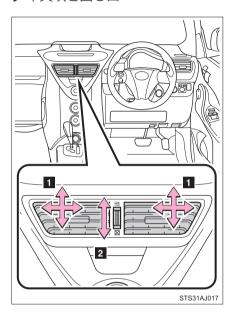
内外気切り替えダイヤルを外気導入に切り替えます。

を押してエアコンをオンにすると、曇りが早く取れます。

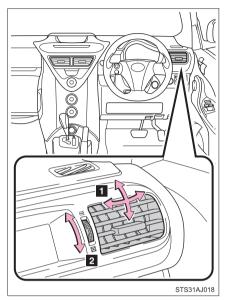
■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

外気導入・内気循環切り替えダイヤルを の位置にまわすと外気導入、 の位置にまわすと内気循環に切り替わります。

風向きの調整・吹き出し口の開閉

▶中央吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶左右吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■内気循環について

● トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。

● 長時間、内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が0℃付近のとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■吹き出し口を　にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■Stop & Start システムが作動しているとき（Stop & Start システム装着車）

Stop & Start システムによるエンジン停止中、湿度によって臭いがする場合があります。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

オートエアコン*

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オート設定を使うとき

手順 1 AUTO を押す。

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは TEMP を押して調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす。

手順 3 A/C を押す。

スイッチを押すたびにエアコンのオン／オフが切り替わります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

■ エアコンのオン／オフを切り替えるには

 を押す。

スイッチを押すたびにエアコンのオン／オフが切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

手順 1 を押す。

手順 2 調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす。

■ 風量をかえるには

手順 1 を押す。

手順 2 調節ダイヤルを右（増）か左（減）にまわす。

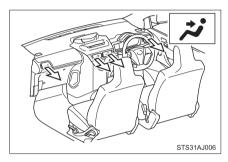
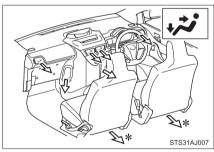
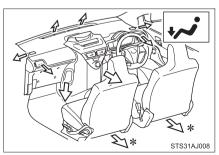
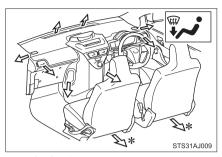
風量は７段階に調整できます。

送風を止めるときは を押す。

■吹き出し口を切り替えるには

手順 1 を押す。

手順 2 調節ダイヤルをまわし、吹き出し口を選ぶ。

まわすたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元に送風

＊一部車種のみ

足元に送風

＊一部車種のみ

足元に送風・ガラスの曇りを取る

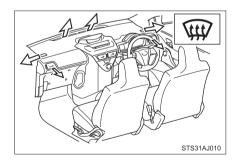
＊一部車種のみ

■外気導入・内気循環を切り替えるには

を押す。

スイッチを押すたびに、外気導入・内気循環が切り替わります。

内気循環を選択しているときは、 の作動表示灯が点灯します。

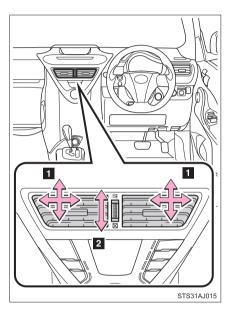
フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す。

自動的に外気導入に切り替わります。

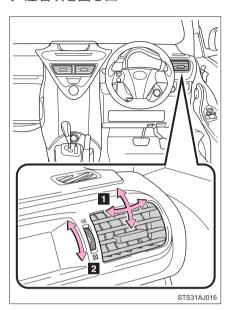
エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度 を押すと、前のモードにもどります。

風向きの調整・吹き出し口の開閉

▶中央吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶左右吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

● AUTO を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。

●長時間、内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■フロントウインドウガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

■外気温度が0℃付近のとき

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

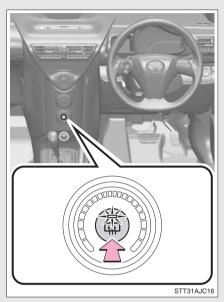
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウガラスの曇りを取るときにお使いください。

▶マニュアルエアコン装着車

オン／オフ

押すごとにオン／オフが切り替わり、作動中は表示灯が点灯します。

▶オートエアコン装着車

オン／オフ

押すごとにオン／オフが切り替わり、作動中は表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

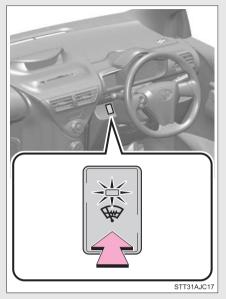
⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー＊

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

STT31AJC17

オン／オフ

押すごとにオン／オフが切り替わり、作動中は表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。

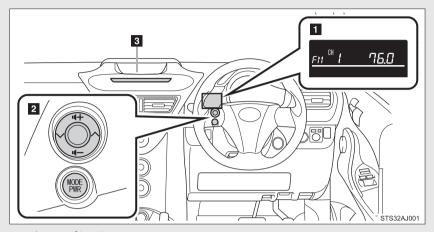
警告

■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーディオの種類

CD プレーヤー、AM ／ FM ラジオ

1 ディスプレイ
2 ステアリングスイッチ
3 CD 挿入口

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 194
CD プレーヤーの使い方	P. 198
MP3 ／ WMA ディスクの聞き方	P. 205
快適に聞くために	P. 214
AUX 端子の使い方	P. 216
ステアリングスイッチの使い方	P. 218

電源を入れる

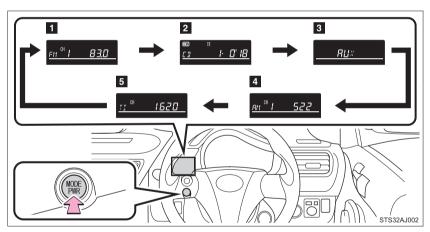
を押す。

スイッチを“ピッ、ピッ”と音が 2 回鳴るまで押すと、オーディオの電源がオフになります。

モードを切り替える

を押す (オーディオの電源がオンのとき)。

押すごとに次のようにモードが切り替わります。

1 FM
2 CD
3 AUX （外部入力接続）
4 AM
5 TI（交通情報）

CD が挿入されていないときは、CD を選択できません。
AUX 端子に機器が接続されていないときは、AUX を選択できません。

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

注意

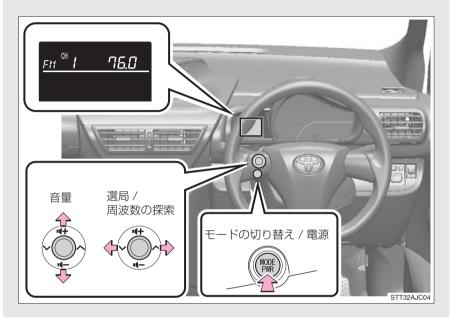
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

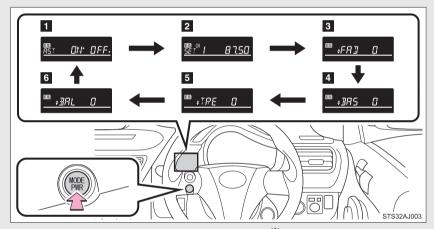
ラジオの使い方

 を押して、AM または FM を選択する。

■ ラジオの設定

手順 1 を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 を押す。

押すごとに次のように項目が切り替わります。

1 AST（→P. 196）

放送局の自動設定

2 SET ※（→P. 196）

放送局の手動設定

3 FAD ※（→P. 214）

前後音量バランス調整

4 BAS ※（→P. 214）

低音レベル調整

5 TRE ※（→P. 214）

高音レベル調整

6 BAL ※（→P. 214）

左右音量バランス調整

※停車中のみ選択できます。

放送局を記憶させる

■ 自動設定

手順 1 を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 を押して、AST を選択する。

手順 3 を“◀+”（ON）側に押す。

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると“ピッ、ピッ”と音が2回鳴ります。

■ 手動設定

手順 1 を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 を押して、SET を選択する。

手順 3 を“∧”（高い周波数）側、または“∨”（低い周波数）側に押して、お好みの放送局を探す。

手順 4 を“◀+”側、または“◀−”側に押して、記憶させたいチャンネル（CH1 ～ 6）を選ぶ。

手順 5 を“ピッ”と音が鳴るまで“◀+”側、または“◀−”側に押す。

交通情報（TI）を受信する

を押して TI を選択する。

知識

■ 交通情報（TI）について

● 交通情報（TI）は、1620kHz にセットされています。

● 交通情報（TI）を受信しているときは、 を操作しても、周波数は切り替わりません。

■バッテリーとの接続が断たれたときは

チャンネル（CH1 ～ 6）に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

●アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

●AST（放送局の自動設定）を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

●ラジオ用アンテナはルーフ後方にあります。（→P. 221）

CD プレーヤーの使い方

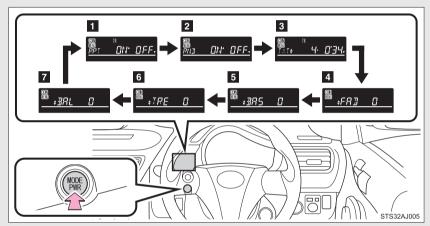
MODE PWR を押して、CD を選択する。

■ CD の設定

手順 1 を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 を押す。

押すごとに次のように項目が切り替わります。

1 RPT（→P. 200）
リピート再生

2 RND（→P. 201）
ランダム再生

3 TXT※（→P. 201）
表示切り替え

4 FAD※（→P. 214）
前後音量バランス調整

5 BAS※（→P. 214）
低音レベル調整

6 TRE※（→P. 214）
高音レベル調整

7 BAL※（→P. 214）
左右音量バランス調整

※停車中のみ選択できます。

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する。

CD を取り出す

を押して CD を取り出す。

曲を選ぶ

を“∧”（次曲）側、または“∨”（前曲）側に押して、聞きたい曲の番号を表示させる。

早送り、早もどしする

早送りするときは を“∧”側に、早もどしするときは を“∨”側に押し続ける。

リピート（RPT）再生する

手順 1 MODE PWR を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 MODE PWR を押して、RPT を選択する。

手順 3 を“+”（ON）側に押す。

“−”（OFF）側に押すと解除されます。

ランダム（RND）再生する

手順 1 MODE PWR を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 MODE PWR を押して、RND を選択する。

手順 3 を“+”（ON）側に押す。

“−”（OFF）側に押すまで、無作為な順序で曲が再生されます。

表示を切り替える

手順 1 MODE PWR を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 MODE PWR を押して、TXT を選択する。

を“+”側、または“−”側に押すごとに、次のように表示が切り替わります。

曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 8 文字までです。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■エラー表示

"ERROR"：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

以下のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

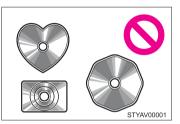
■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

⚠ 注意

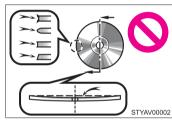
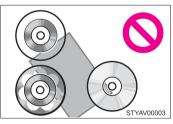
■使用できない CD、アダプター

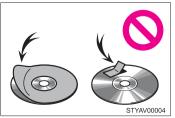
以下のような CD、8cm CD アダプター、DualDisc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

STYAV00001

●直径 12cm、または 8cm の円形以外の CD

STYAV00002

●低品質または変形している CD

STYAV00003

●記録部分が透明または半透明の CD

STYAV00004

●セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

⚠ 注意

■CD プレーヤーの取り扱いについて

以下のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

●CD 挿入口に CD 以外の物を入れない

●CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない

●CD は直射日光を避けて保管する

●CD プレーヤーを分解しない

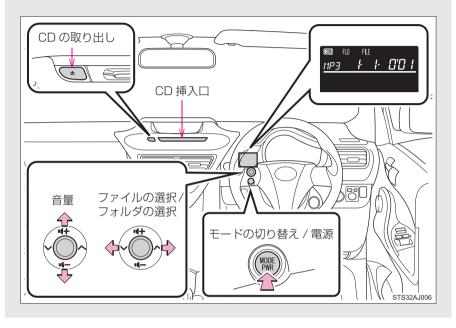
●一度に２枚以上の CD を挿入しない

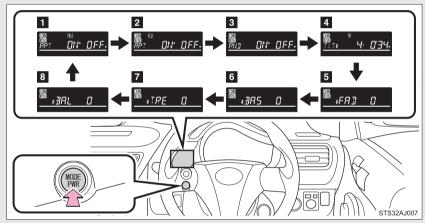
MP3 ／ WMA ディスクの聞き方

 を押して、CD を選択する。

■ MP3/WMA の設定

手順 1 を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 を押す。

押すごとに次のように項目が切り替わります。

- **1** RPT FILE（→P. 207）
  ファイルリピート再生
- **2** RPT FLD※（→P. 208）
  フォルダリピート再生
- **3** RND（→P. 208）
  ランダム再生
- **4** TXT※（→P. 209）
  表示切り替え
- **5** FAD※（→P. 214）
  前後音量バランス調整
- **6** BAS※（→P. 214）
  低音レベル調整
- **7** TRE※（→P. 214）
  高音レベル調整
- **8** BAL※（→P. 214）
  左右音量バランス調整

※停車中のみ選択できます。

MP3 ／ WMA ディスクを挿入する、または取り出す

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。（→P. 198）

ファイルを選択する

 を“∧”（次ファイル）側 、または“∨”（前ファイル）側に押して、聞きたいファイルを選ぶ。

フォルダを選ぶ

 を“ピッ”と音が鳴るまで“∧”（次フォルダ）側、または“∨”（前フォルダ）側に押して、聞きたいフォルダを選ぶ。

リピート（RPT）再生する

■ ファイルを繰り返して再生する

手順 1 を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 を押して、RPT FILE を選択する。

手順 3 を“🔈+”（ON）側に押す。

“🔈−”（OFF）側に押すと解除されます。

■ フォルダを繰り返して再生する

手順 1 MODE PWR を“ピッッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 MODE PWR を押して、RPT FLD を選択する。

手順 3 を“🔈+”（ON）側に押す。

“🔈−”（OFF）側に押すと解除されます。

ディスクの中からランダム（RND）再生する

手順 1 MODE PWR を“ピッッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 MODE PWR を押して、RND を選択する。

手順 3 を“🔈+”（ON）側に押す。

“🔈−”（OFF）側に押すまで、無作為な順序で曲が再生されます。

表示を切り替える

手順 1 を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 を押して、TXT を選択する。

 を“🔈+”側、または“🔈−”側に押すごとに、次のように表示が切り替わります。

フォルダ番号・ファイル番号・経過時間　→　フォルダタイトル　→
ファイル名　→　ディスクタイトル（MP3 のみ）　→　曲名　→
アーティスト名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 8 文字までです。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■エラー表示

"ERROR"：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

"NO MUSIC"：ディスク内に MP3 ／ WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■再生可能な CD

以下のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■MP3 ／ WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。
WMA（Windows Media Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できる MP3 ／ WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

・対応規格
MP3 (MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3)
・対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3：32、44.1、48 (kHz)
MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24 (kHz)
・対応ビットレート
MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
※ VBR に対応しています。
・対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・対応規格
WMA Ver.7、8、9
・対応サンプリング周波数
32、44.1、48 (kHz)
・対応ビットレート
Ver.7、8： CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて
MP3 ／ WMA ファイルの再生に使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。
CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋を付けた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて

使用できるメディアのフォーマットは下記の通りです。

・ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
・ファイルフォーマット：ISO9660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれたMP3／WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

・最大ディレクトリ階層：8 階層
・最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角 32 文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
・最大フォルダ数：192（ルート含む）
・ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について

MP3／WMA と認識し再生するファイルは、MP3／WMA の拡張子 ".mp3" または ".wma" が付いたものだけです。

●マルチセッションについて

マルチセッションに対応しており、MP3 ／ WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ／ WMA タグについて

MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します。）
WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3 ／ WMA の再生について

MP3 ／ WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3 ／ WMA ファイルを再生します。

ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3 ／ WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。

音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは、音楽データのみ再生できます。

●拡張子について

MP3 ／ WMA 以外のファイルに ".mp3" または ".wma" の拡張子が付いていると、MP3 ／ WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

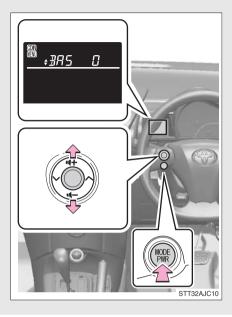
●再生について

・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3 ／ WMA は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3 ／ WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

⚠ 注意

■使用できない CD、アダプター（→P. 203）

■CD プレーヤーの取り扱いについて（→P. 204）

快適に聞くために

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

音質・音量バランスの調整

手順 1 MODE PWR を“ピッ”と音が鳴るまで押す。

MENU が表示されます。

手順 2 MODE PWR を押して、“BAS”、“TRE”、“FAD”または“BAL”を選択する。

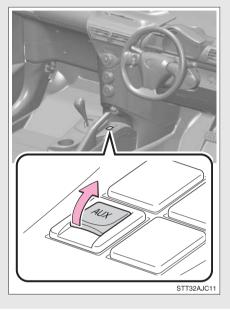
手順 3 を“+”側、または“−”側に押して、音質・音量バランスのレベルを調整する。

調整モード	表示	レベル	“◀−” を押す	“◀+” を押す
低音※	BAS	−５～５	弱	強
高音※	TRE	−５～５		
前後音量バランス	FAD	R7 ～ F7	後側大	前側大
左右音量バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大

※音質レベルは、ラジオ、CD プレーヤーまたは AUX モードそれぞれで調整できます。

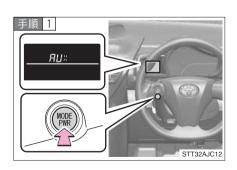
AUX 端子の使い方

ポータブルオーディオプレーヤーなどの機器を接続して、車両のスピーカーで聞くことができます。

STT32AJC11

フタを開けてポータブルオーディオプレーヤーなどを接続する。

市販のミニプラグを使用して、接続する機器の音声出力端子とAUX端子とを接続します。
接続する機器の電源がオフの状態で接続してください。

使用するときは

STT32AJC12

を押してAUXを選択する。

手順 2 接続した機器の電源をオンにし、再生を開始する。

操作方法は、接続する機器の取扱説明書を参照してください。

音量・音質は、接続した機器および車両の を操作して調整します。

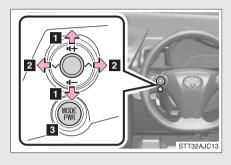
使用しないときは、接続した機器側で停止操作を行い、電源をオフにします。

注意

■故障を防ぐために

端子に異物が入ったり飲料水などがかかったりするのを防ぐため、ポータブルオーディオプレーヤーを接続していないときは、AUX 端子のフタを閉めておいてください。

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。

1 音量を調節する

2 ラジオ：選局する
CD：曲／ファイル、フォルダを選ぶ

3 電源を入れる、モードを切り替える

電源を入れる

を押す。

スイッチを“ピッ、ピッ”と音が 2 回鳴るまで押すと、オーディオの電源がオフになります。

モードを切り替える

を押す（オーディオの電源がオンのとき）。

押すごとに次のように切り替わります。

FM → CD → AUX → AM → TI（交通情報）

CD が挿入されていないときは、CD を選択できません。

AUX 端末に機器が接続されていないときは、AUX を選択できません。

音量を調整する

を“+”側、または“−”側に押す。

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

放送局を選択するには

を押して AM または FM を選択する。

手順 2 を“∧”側、または“∨”側に押す。

スイッチを押すごとに、記憶させている周波数を選択します。

"ピッ" と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

CD の操作

を押して CD を選択する。

手順 2 を“∧”側、または“∨”側に押して、希望の曲を選択する。

MP3 ／ WMA の操作

■ ファイルを選択するには

手順 1

を押して CD（MP3 ／ WMA) を選択する。

手順 2 を“∧”側、または“∨”側に押して、希望の曲を選択する。

■ フォルダの選択をするには

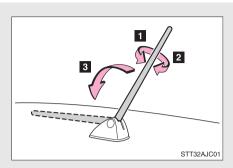
手順 1

を押して CD（MP3 ／ WMA) を選択する。

手順 2 を“∧”側、または“∨”側に“ピッ”と音がするまで押して、希望のフォルダを選択する。

警告

■**事故を防ぐために**

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

アンテナ

1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立ててください。

⚠ 注意

■自動洗車機にかけるときは

アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。

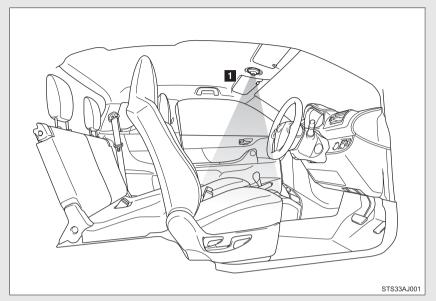
■アンテナの損傷を防ぐために

以下のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■洗車時などアンテナを取りはずしたときは

アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおり取り付けてください。

室内灯一覧

1 インテリアライト（→P. 223）

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

ドアの施錠・解錠／開閉、エンジン スイッチの位置により、インテリアライト※が自動的に点灯・消灯します。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

電子キーの検知、ドアの施錠・解錠／開閉、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態により、インテリアライト※が自動的に点灯、消灯します。

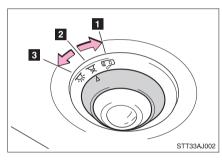
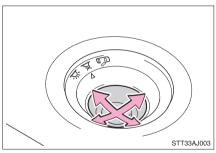
※ インテリアライトはスイッチが [DOOR] ポジションのときに作動します。

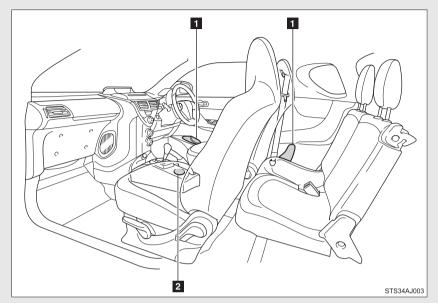
■バッテリーあがりを防ぐために

■半ドア状態でインテリアライトのスイッチが [ドアポジション] ポジションのときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約２０分後に自動消灯します。

■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 350）

インテリアライト

1 ドアポジション（ドア連動）
2 消灯
3 点灯

インテリアライトを適切な角度に調節する。

収納装備一覧

1 ボトルホルダー
2 カップホルダー

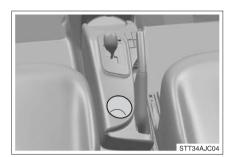
⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

● 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
● 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

カップホルダー

STT34AJC04

⚠ 警告

■**収納してはいけないもの**

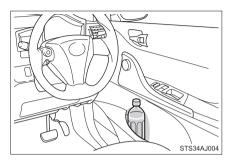
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故の際に落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー

▶フロント

STS34AJ004

▶リヤ

STT34AJC05

知識

■ボトルホルダーについて

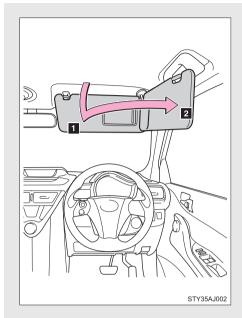
●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

⚠ 注意

■収納してはいけないもの

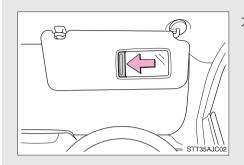
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーを開けて使用します。

アクセサリーソケット

12V 10A（120W）未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

STT35AJC03

フタを手前に引いて開ける。

知識

■使用条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

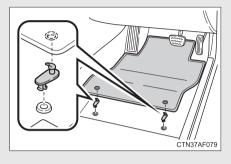
■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A（120W）を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

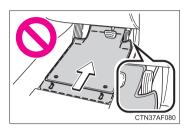
以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

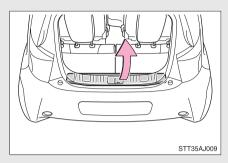
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年代のフロアマットは使用しない。
- 運転席用のフロアマットを使用する。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない。

⚠ 警告

■**運転する前に**

CTN37AF080

● フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行う。

● エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する。

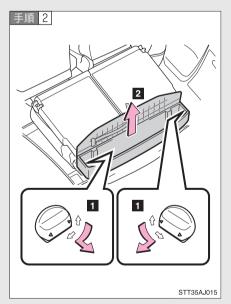
ラゲージルーム内装備

■ デッキボックス

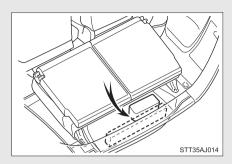
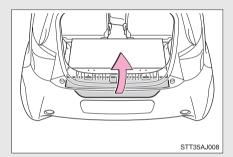
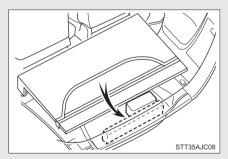
バンドを引いてフタを開ける。

■ 三角表示板収納スペース

▶4 人乗り車

手順 1 リヤシートの背もたれを倒す。 （→P. 52）

手順 2

1 ツマミをまわして取りはずす

2 デッキボックスを取り出す

▶2 人乗り車

デッキボードを開ける。

知識

■収納について

三角表示板のケースの大きさ、形によって収納できない場合があります。

⚠ 警告

■デッキボックスについて

デッキボックスのフタを必ず閉じてください。
開けたまま走行すると、急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■三角表示板を収納するときは

確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと急ブレーキ時などに三角表示板が飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お手入れのしかた 4

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください）にワックスをかけます。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■アルミホイール*

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■アンテナの取りはずしについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れを拭き取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤を拭き取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分を拭き取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤を拭き取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは極力、乾いた状態を保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、拭き取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。
（→ P. 56）

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。 電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。（→ P. 76）
  電気的不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（とくにインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠ 注意

■**清掃するとき使用する溶剤について**

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、以下の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤
・シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■**革の傷みを避けるために**

革の部分の損傷・消耗を避けるために、以下のことをお守りください。

●革に付いたほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする。とくに夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■**フロアに水がかかると**

フロアを水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■**リヤウインドウガラスの内側を清掃するときは**

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

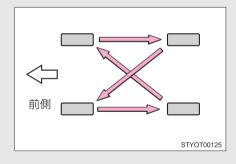
● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

前輪：230 kPa (2.3 kg/cm^2) ※

後輪：220 kPa (2.2 kg/cm^2) ※

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- タイヤは全て同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

⚠ 警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

⚠ 注意

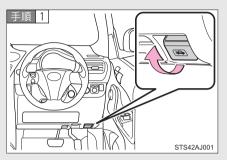
■走行中に空気もれが起こったら

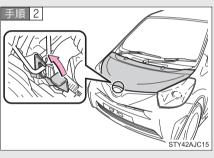
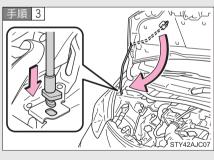
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける。

ボンネットステーをステー穴に挿し込む。

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピュータに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを開けたときは

ボンネットを開けたときは、必ずボンネットステーを使用し、確実に固定されていることを確認してください。傾斜地ではボンネットステーなしで開いた状態が保持される場合がありますが、不意にボンネットが閉まるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

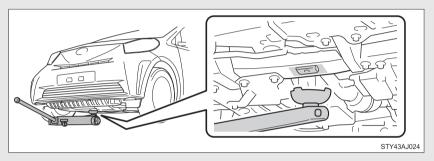
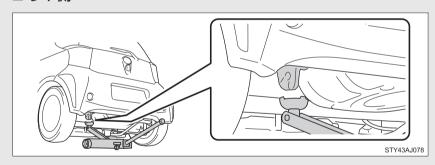
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

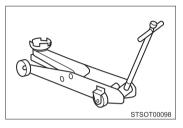
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■**車両を持ち上げるときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

STSOT00098

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

●車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。

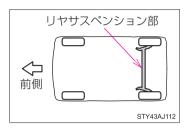
●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。

●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、オートマチック車はシフトレバーを P、マニュアル車はシフトレバーを R にしてください。

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

警告

■車両を持ち上げるときは

●リヤサスペンション部などで、ジャッキアップしないでください。
車両が損傷します。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。

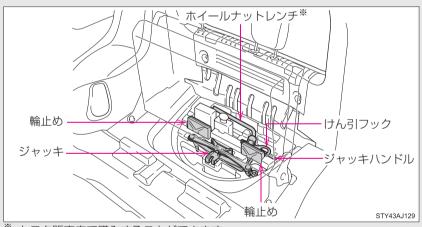
●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下に物を置かないでください。

タイヤの交換

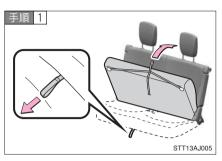
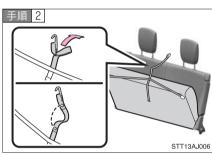
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

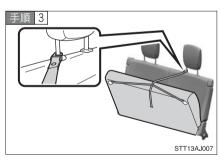
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを R に入れる
- エンジンを停止する

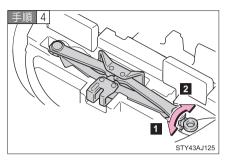
■ 工具とジャッキ位置

※ トヨタ販売店で購入することができます

ジャッキの取り出し方

▶4 人乗り車

解除バンドを引いてシートクッションを持ち上げる。

はじめに解除バンドを水平に引いてシートクッションのロックを解除し、そのまま上に持ち上げてください。

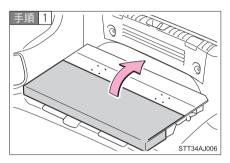
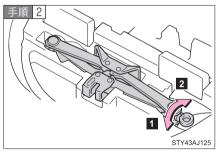
解除バンドのボタンをはずし、フックを伸ばす。

持ち上げたシートクッションを固定する。

左右どちらかのヘッドレストの支柱にフックをかけて、シートクッションを吊るして固定します。

シートクッションを降ろすとき、フックをもとの位置に戻してください。

ジャッキを取り出す。

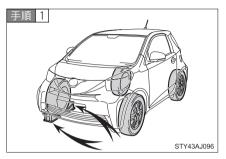
1 ゆるむ

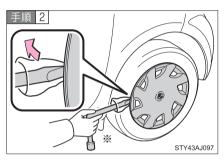
2 締まる

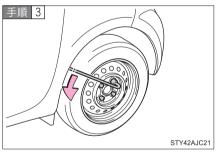
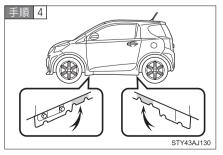
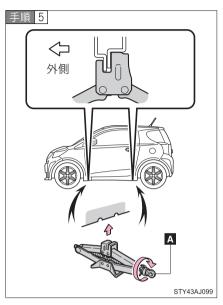
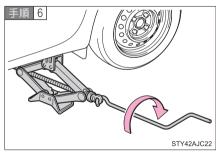
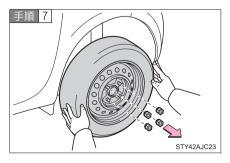
▶2 人乗り車

デッキボードを開ける。

ジャッキを取り出す。

1 ゆるむ

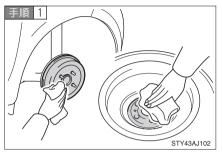
2 締まる

タイヤの交換

輪止めをする。

交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪前後
	右側	左側後輪前後
後輪	左側	右側前輪前後
	右側	左側前輪前後

ホイールキャップをはずす。
(スチールホイールのみ)

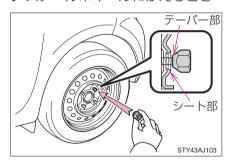
※ ホイールナットレンチはトヨタ販売店で購入することができます。

ナットを少し(約1回転)ゆるめる。

ジャッキセット位置を確認する。

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

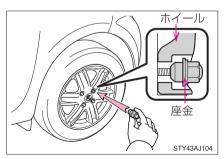
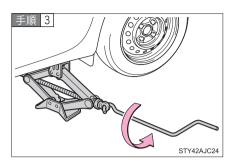
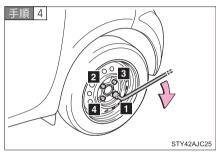
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れを拭き取る。

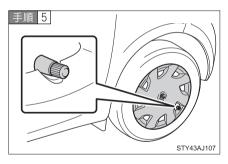
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

▶スチールホイールにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわす。

▶アルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールに当たるまで仮締めする。

車体を下げる。

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

ホイールキャップを取り付ける。(スチールホイールのみ)

タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付ける。

手順 6 すべての工具・ジャッキを収納する。

⚠警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないためほかの車に使ったり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
  走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースを塗らない
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合は拭き取ってください。
- ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検をうける

上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や傷を負う事故につながるおそれがあります。

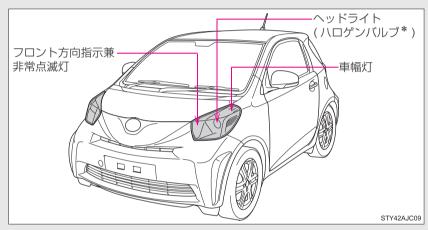
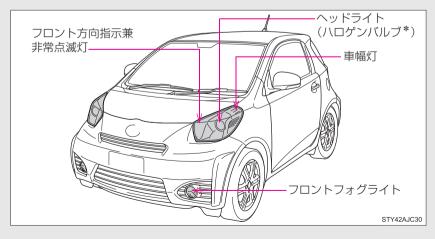
電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

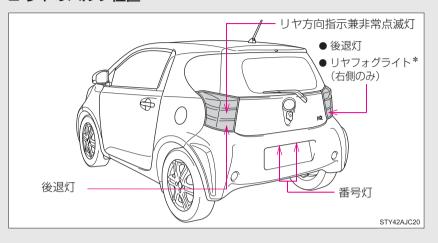
■ 電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確かめてください。（→P. 349）

■ フロントのバルブ位置

▶ フロントフォグライト非装着車

▶ フロントフォグライト装着車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト（ハロゲンバルブ*）

▶ 運転席側

A ブラケットからウォッシャー液注入口ノズルをツメをつまみながらはずし、横にずらす。

B ブラケットからウォッシャー液注入口ノズルをツメを押しながらはずし、横にずらす。

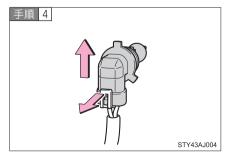
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 2

カバーを取りはずす。

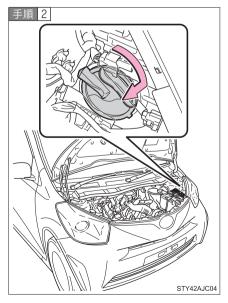
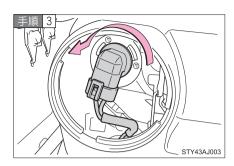
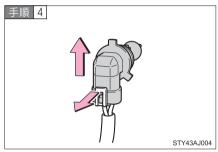
手順 3

ソケットを取りはずす。

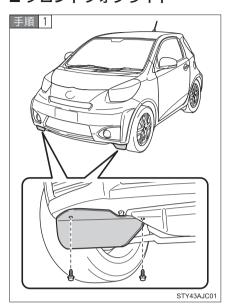
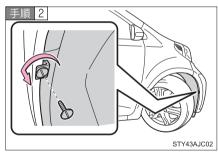
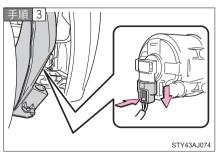
手順 4

電球を取りはずす。

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

▶ 助手席側

ツメを押しながら、ヒューズカバーを取りはずす。

カバーを取りはずす。

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ フロントフォググライト*

スパッツのボルトを取りはずす。

クリップを取りはずし、フェンダーライナーをめくる。

ソケットを取りはずす。

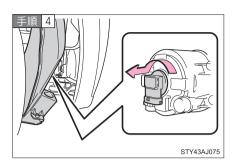
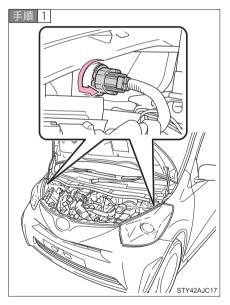
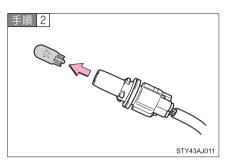
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球を取りはずす。

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ 車幅灯

ソケットを取りはずす。

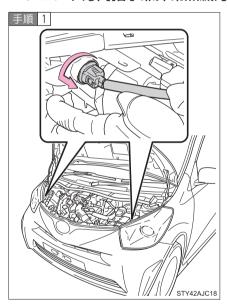
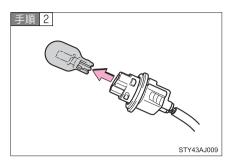
手順 2

電球を取りはずす。

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

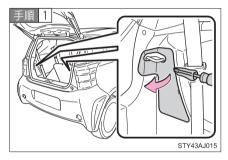
手順 1

ソケットを取りはずす。

手順 2

電球を取りはずす。

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯、後退灯／リヤフォグライト*

手順 1

バックドアを開けて、図の位置にマイナスドライバーを挿し込んで、カバーを取りはずす。

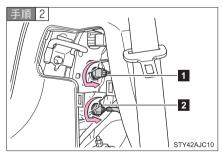
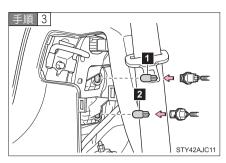
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 2

ソケットを取りはずす。

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

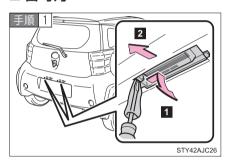
2 後退灯／リヤフォグライト*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球を取りはずす。

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯／リヤフォグライト*

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ 番号灯

ライト本体をはずす。

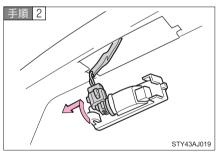
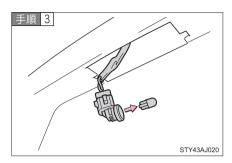
1 マイナスドライバーでツメをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

2 バンパーを引きながら、ライト本体を取りはずす

ソケットを取りはずす。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球を取りはずす。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ その他の電球

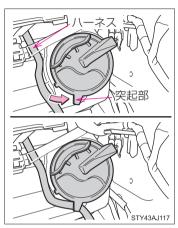
以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ● ヘッドライト（ディスチャージバルブ*）
- ● サイド方向指示兼非常点滅灯
- ● 尾灯／制動灯
- ● ハイマウントストップライト

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ヘッドライト（ハロゲンバルブ*）を交換したときは

●カバーを取り付けるときは

ハーネスをカバー突起部で固定してください。

●運転席側ヘッドライト：必ずウォッシャー液補給口をしっかり取り付けてください。

●助手席側ヘッドライト：必ずヒューズカバーをしっかり取り付けてください。

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ライト内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドライト*の作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■電球を交換するときは

- ●ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- ●電球のガラス部を素手で触れないでください。
  プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- ●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
  取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- ●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ディスチャージヘッドライト*について

- ●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- ●点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
  瞬間的に３万ボルトの電圧が発生するため、感電による重傷の原因となることがあります。

⚠ 注意

■お車の故障や火災を防ぐために

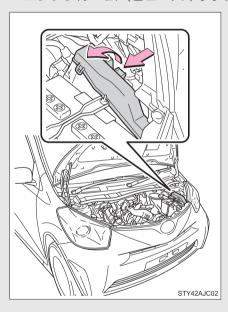
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチを “LOCK” にする
スマートエントリー＆スタートシステム装着車：
“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ツメを押しながら、ヒューズカバーを取りはずす。

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）*

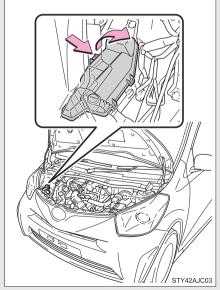
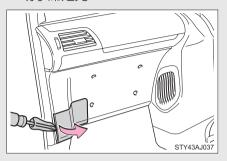
1. A ブラケットからウォッシャー 液注入口ノズルをツメをつまみながらはずし、横にずらす。

   B ブラケットからウォッシャー液注入口ノズルをツメを押しながらはずし、横にずらす。

2. ツメを押しながら、ヒューズカバーを取りはずす。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ 助手席足元

STY43AJ037

1. カバーを取りはずす。

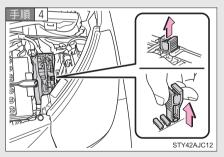
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

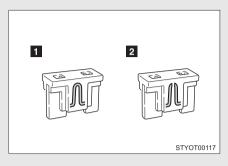
STY43AJ063

2. ヒューズカバーを取りはずす。

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 277) で確認する。

手順 4

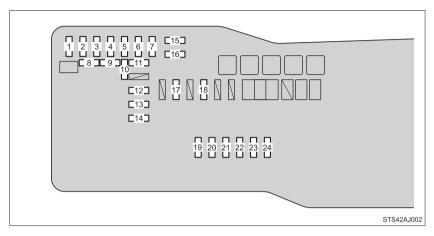
STY42AJC12

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

手順 5 ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

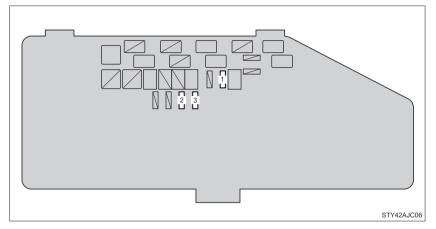
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム （ヒューズボックス A）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	D/C CUT	30 A	ECU-B NO.1, DOME
2	（IMMOBI）	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム
3	TURN&HAZ	10 A	方向指示灯、非常点滅灯
4	ETCS	10 A	EFI システム
5	ECU-B NO.2	5 A	メーター、パワーウインドウ、オートエアコン
6	（AM2 NO.2）	7.5 A	パワーマネージメントコントロールコンピュータ、Stop & Start システム
7	H-LP LO ※1	30 A	メインボデーECU、H-LP RH LO、H-LP LH LO
	H-LP LH LO ※2	10 A	左側ヘッドライト（ロービーム）
8	SPARE	—	予備ヒューズ
9	SPARE	—	予備ヒューズ
10	SPARE	—	予備ヒューズ
11	AM2 NO.1	30 A	始動系

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
12	H-LP HI	7.5 A	ヘッドライト（ハイビーム）
13	(STRG LOCK)	20 A	ステアリングロック
14	H-LP RH LO ※2	10 A	右側ヘッドライト（ロービーム）
15	DOME	15 A	ラジオ、室内灯
16	ECU-B NO.1	7.5 A	ドアロック、スマートエントリー&スタートシステム、メインボデーECU、ステアリング、Stop & Start システム
17	(WIP-S)	7.5 A	パワーマネージメントコントロールコンピュータ
18	DEFOGGER	30 A	リヤウインドウデフォッガー
19	HORN	10 A	ホーン
20	EFI-MAIN	20 A	EFI システム、EFI NO.1、フューエルポンプ
21	(ALT-S)	7.5 A	未使用
22	IGN	15 A	インジェクション、イグナイター
23	IG2	10 A	エアバッグ、メーター、スマートエントリー&スタートシステム、シフトロックシステム、Stop & Start システム
24	EFI NO.1	10 A	EFI システム

※1：ディスチャージヘッドライト装着車

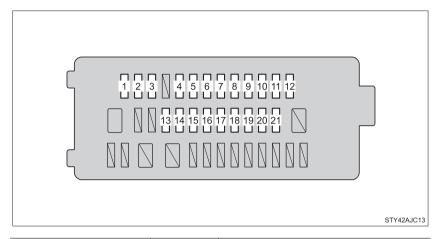
※2：ハロゲンヘッドライト装着車

■ エンジンルーム （ヒューズボックス B）*

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	(DEICER)	20 A	ワイパーデアイサー
2	H-LP RH LO ※1	15 A	右側ヘッドライト (ロービーム)
	(H-LP RH LO) ※2	10 A	未使用
3	H-LP LH LO ※1	15 A	左側ヘッドライト（ロービーム）
	(H-LP LH LO) ※2	10 A	未使用

※1 : ディスチャージヘッドライト装着車

※2 : ハロゲンヘッドライト装着車

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECU-IG NO.1	7.5 A	S-VSC、シフトロックシステム、電動パワーステアリング、自動光軸調整システム、メインボデーECU、Stop & Start システム
2	GAUGE	10 A	電動クーリングファン、充電系、助手席シートベルトウォーニング、非常点滅灯、バックアップランプ、EFI システム
3	HTR-IG	10 A	オートエアコン、マニュアルエアコン、ワイパーデアイサー、リヤウインドウデフォッガー
4	WASHER RR	10 A	リヤウォッシャー
5	WIPER RR	10 A	リヤワイパー
6	WIPER FR	25 A	フロントワイパー
7	WASHER FR	10 A	フロントウォッシャー
8	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
9	(FOG RR)	7.5 A	リヤフォグライト
10	(PANEL NO.2) ※1	5 A	未使用
	TAIL NO.1 ※2	10 A	光軸調整スイッチ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
11	DOOR NO.2	20 A	パワーウインドウ
12	D/L NO.1	15 A	ドアロック、メインボデー ECU
13	CIG	15 A	アクセサリーソケット
14	ACC	5 A	電動ミラー、シフトロックシステム、メインボデーECU、Stop & Start システム
15	(PANEL NO.1) ※1	5 A	スイッチ照明、メーター照明
	PANEL ※2		スイッチ照明、メーター照明、パワーマネージメントコントロールコンピュータ
16	TAIL ※1	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、リヤフォグライト、フロントフォグライト、光軸調整スイッチ、メーター照明、EFI システム
	TAIL NO.2 ※2		
17	(FOG FR)	15 A	フロントフォグライト
18	AM1	7.5 A	ACC、始動
19	STOP	10 A	EFI システム、S-VSC、シフトロックシステム、パワーマネージメントコントロールコンピュータ、制動灯、ハイマウントストップ
20	(D/L NO.2)	10 A	未使用
21	(SEAT-HTR)	15 A	未使用

※1：ディスチャージヘッドライト装着車

※2：ハロゲンヘッドライト装着車

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 259）

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

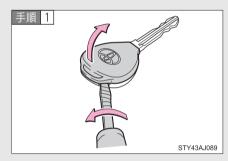
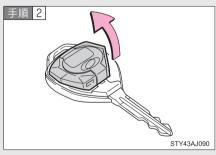
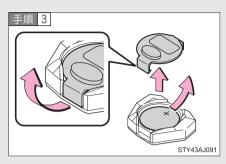
●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

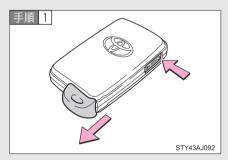
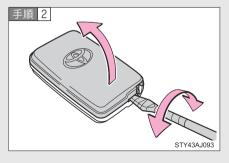
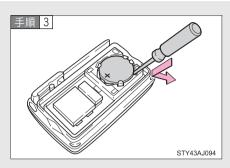
■ 用意するもの

- テープを巻いたマイナスドライバー
- 小さいプラスドライバーなど
- リチウム電池
  - ・CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）
  - ・CR1632（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

カバーをはずす。

モジュールを取り出す。

モジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す。

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

解除ボタンを押してメカニカルキーを抜く。

カバーをはずす。

消耗した電池を取り出す。

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

知識

■電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー＆スタートシステム（装着車のみ）、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、CR1632（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

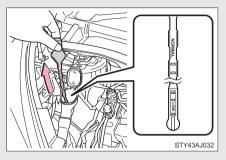
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

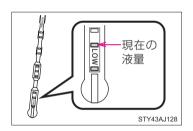
■交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

液面が LOW の位置に近付いたら、ウォッシャー液を補給してください。

知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃、交換

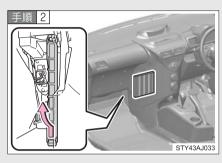
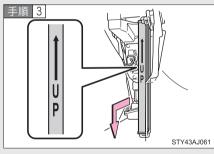
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチを “ LOCK ” にする。
スマートエントリー&スタートシステム装着車：
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする。

手順 2

フィルターカバーを取りはずす。

手順 3

フィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換する。

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 4 フィルターカバーを取り付ける。

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km [7,500km※] ごと
交換：30,000km [15,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

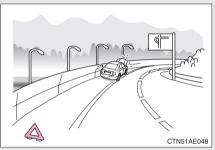
5-2. 緊急時の対処法

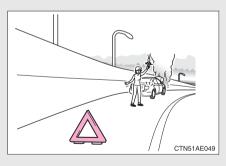
故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示にしたがってください。

CTN51AE050

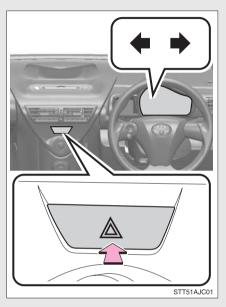
非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 293)
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

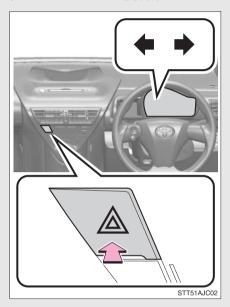
CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 295)

非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。

▶マニュアルエアコン装着車

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

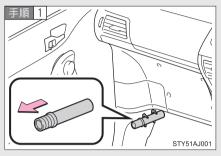
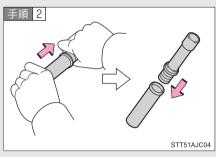
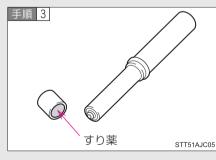
▶オートエアコン装着車

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す。

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む。

先端のフタをとり、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期限がきれる前に、トヨタ販売店でお求めください。

⚠ 警告

■発炎筒が使用できない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまに触らせない

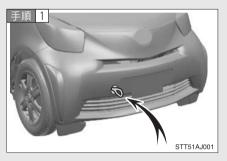
けん引について

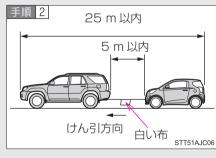
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■けん引する前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける。

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

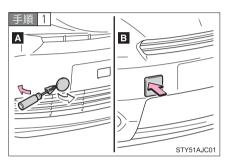
エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしてください。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンがかからないときは、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしてください。

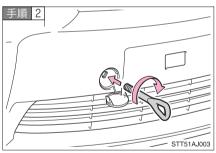
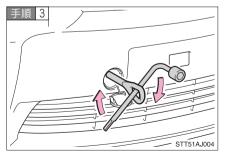
手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付け方

A フロントフォグライト非装着車

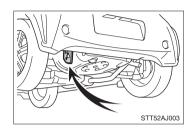
マイナスドライバーと当て布を使ってフタをはずす。

B フロントフォグライト装着車

フタの端を押してはずす。

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める。

ホイールナットレンチ※や固い金属の棒のようなものを使い確実に取り付ける。

※トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■緊急用フックについて

スタックして走行できなくなったときに、緊急的に他車に引っ張り出してもらうために使用します。
この車で他車をけん引することはできません。

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 250

警告

■けん引フックを車両に取り付けるときは

指定の位置に指定のけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、死亡や重大な傷害のおそれがあります。

■けん引中の運転について

- けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
  けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
  エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

警告

■けん引中の運転について

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

●エンジン スイッチを “ LOCK ” にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷をあたえるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピュータを搭載しています。このコンピュータは、システムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h を超えたとき、警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常
	高水温警告灯（赤色点滅または点灯） エンジン冷却水温の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
および VSC OFF （点滅）	**スリップ表示灯および VSC OFF 表示灯** ・S-VSC システム、TRC システムの異常 S-VSC または TRC が作動しているときはスリップ表示灯が点滅、TRC を OFF にしたときはスリップ表示灯が点灯、TRC と S-VSC を OFF にしたときはスリップ表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。(→P. 162, 163)
	ディスチャージヘッドライト／オートレベリング警告灯＊ ・自動光軸調整システムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める。
	燃料残量警告灯※1 燃料の残量（約 5.9 L 以下）	燃料を給油
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
※3 PASSENGER ※4 PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

※1 1回の給油量が 10 L より少ないときは、燃料計が正しく表示されない場合があります。

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

※3 オーディオ装着車

※4 オーディオ非装着車

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

ただちに処置してください（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告灯	警告内容	対処方法
1 回	なし		電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回		電子キーを携帯していない状態かつ“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			電子キーを携帯していない状態かつシフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする または電子キーを携帯する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告灯	警告内容	対処方法
連続音	連続音		電子キーを携帯していない状態かつシフトレバーが P 以外の状態で、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	・シフトレバーを P にする ・電子キーを携帯する
なし	連続（10 秒間）		“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	なし		正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する

パンクしたときは

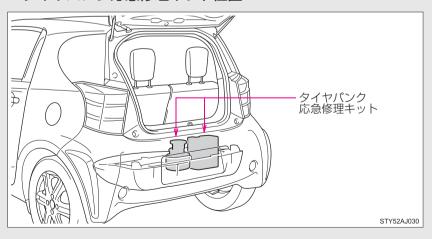
この車両にはスペアタイヤが搭載されていません。

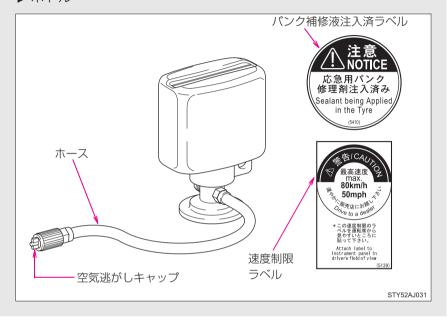
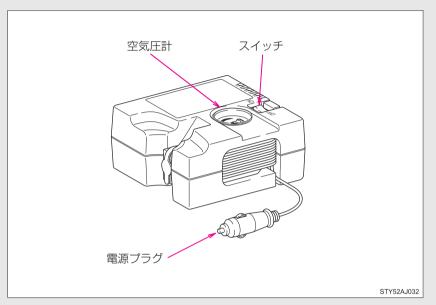
タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液１本につき、応急修理できるタイヤは １ 本です。）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

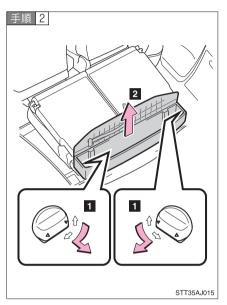
■ 応急修理する前に

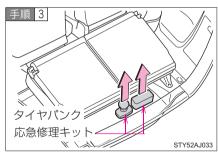
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを N に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

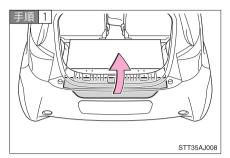
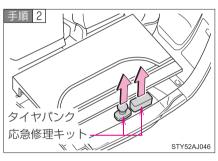
■ タイヤパンク応急修理キット位置

■ タイヤパンク応急修理キットの内容、各部名称

▶ボトル

▶コンプレッサー

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

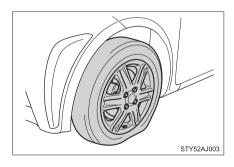
▶4 人乗り車

手順 1 リヤシートの背もたれを倒す。（→P. 52）

1 ツマミをまわして取りはずす

2 デッキボックスを取り出す

タイヤパンク応急修理キットを取り出す。

▶2 人乗り車

デッキボードを開ける。

タイヤパンク応急修理キットを取り出す。

応急修理する前に

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する。

釘やねじなどが刺さっている場合のみタイヤを応急修理してください。

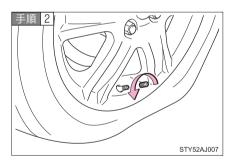
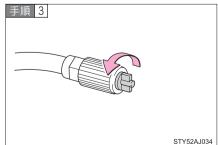
- タイヤに刺さっている釘やねじなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ応急修理が出来なくなることがあります。
- パンク補修液が漏れないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

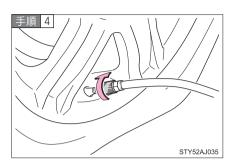
知識

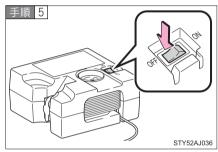
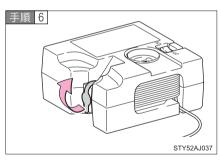
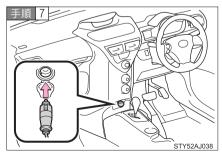
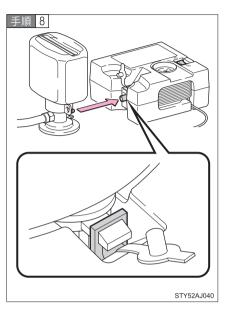
■以下のときは、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

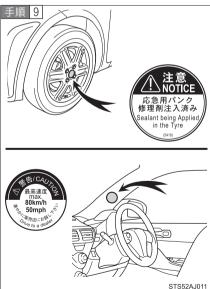
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限がきれているとき

応急修理するときは

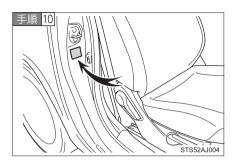
手順 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す。

パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす。

ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす。

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する。

ホース先端を時計まわりに回してしっかりと最後までねじ込む。

コンプレッサーのスイッチが OFF である事を確認する。

コンプレッサーのゴム栓をはずす。

コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む。(→P. 229)

ボトルをコンプレッサーに接続する。

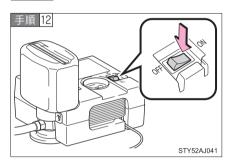
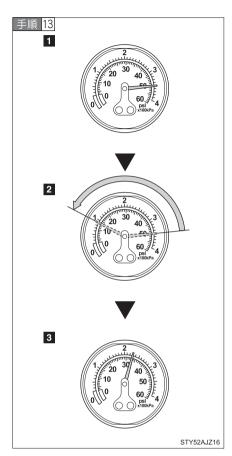
しっかりと接続されているか確認してください。

付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける。

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。

手順 10

タイヤの指定空気圧を確認する。

運転席側の空気圧ラベルで確認する事ができます。(→P. 243)

手順 11 エンジンを始動する。

手順 12

コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する。

空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する。

1 スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が 300 ～ 400 kPa にまで上昇する。

2 1 分程度（低温の場合は 15 分程度）で実際の空気圧表示になる。

3 指定空気圧になるまで充填する。

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認を繰り返してください。

10分以上（低温の場合は40分以上）充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

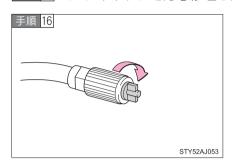
空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P. 243、320）

手順 14 コンプレッサーのスイッチが OFF である事を確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜く。バルブからボトルのホースを取りはずす。

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

手順 15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける。

手順 16

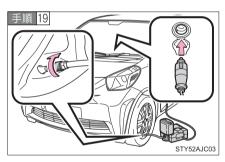
STY52AJ053

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける。

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

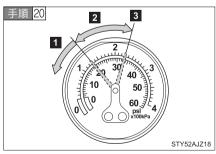
手順 17 一旦、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する。

手順 18 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、直ちに約５km、速度 80km/h 以下で安全に走行する。

手順 19

STY52AJC03

走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する。

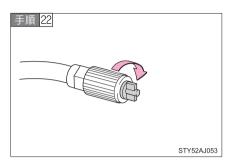
手順 20

STY52AJZ18

コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する。

1 空気圧が 130 kPa未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

2 空気圧が 130 kPa以上、指定空気圧未満の場合：手順 21へ

3 空気圧が指定空気圧の場合：手順 22へ

手順 21 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約５ km 走行後にあらためて 手順 19 から実施する。

手順 22

STY52AJ053

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける。

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

手順 23 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納します。

手順 24 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転してトヨタ販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

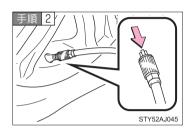
■応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限がきれる前に交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル１本でタイヤ１本を１回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 外気温度が -30°C ～ 60°C のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかに拭き取ってください。

●応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからボトルのホースを取りはずす。

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く。

手順 3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する。

手順 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する。

指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限は容器に表示されています。

⚠ 警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

警告

■応急修理キットについて

- 応急修理キットはラゲージルームに収納してください。
  急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させる。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- パンク補修液注入中にボトルのホースが外れると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順にしたがって応急修理を行ってください。
  手順通りに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

●破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、直ちにコンプレッサーのスイッチを切り、修理を中止してください。

●応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。６０分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分はとくに熱くなるので触れないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。とくにカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、以下を確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
・再度空気圧を測ってください。130 kPa 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするときは

●タイヤに刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理をおこなってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。

●応急修理キットはラゲージルームに収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。

●分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 113, 116）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P. 114, 118）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 113, 116）にしたがって、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステム＊に異常がある可能性があります。（→P. 74）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 330）

● バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 325）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 330)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能 (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 シフトレバーを P に入れる。

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする。

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを約 15 秒以上押し続ける。

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは＊

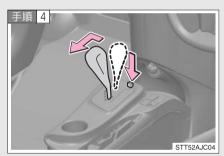
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ ACC ”にする。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：“　エンジンスタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

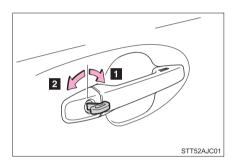
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 26)

電子キーが正常に働かないときは(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

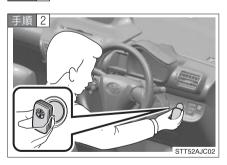
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり(→P. 41)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けたり、エンジンを始動することができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー(P. 26)を使って操作します。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

モードの切り替え、エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーがＰの状態でブレーキを踏む。

電子キーのトヨタエンブレム面で、“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れる。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 次の操作を行う。

モードの切り替え：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→P. 117)

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

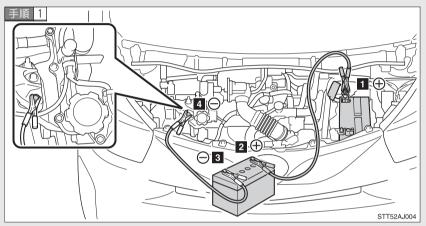
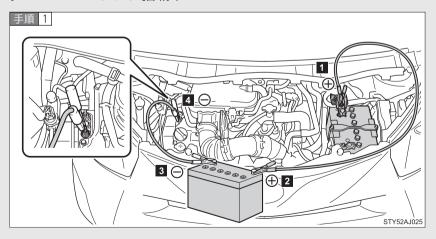
■電池交換について

前頁のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 283)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

▶ 1KR-FE エンジン搭載車

▶ 1NR-FE エンジン搭載車

ブースターケーブルを次の順につなぐ。

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 3 “ エンジン　スタート　ストップ ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

手順 4 スマートエントリー&スタートシステム非装着車：救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジン スイッチをいったん “ ON ” にしてから自車のエンジンをかける。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：救護車のエンジン回転を維持したまま、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンをかける。

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピュータに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

●バッテリーがあがった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリーあがり前の“ エンジン スタート ストップ ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時はとくに注意してください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう以下のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- ●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■車の損傷を防ぐために(マニュアル車)

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

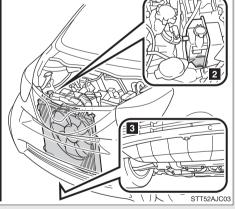
手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する。

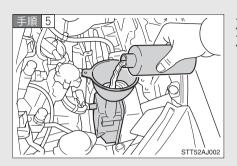
ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する。

手順 4

1 エンジンが十分に冷えたことを確認する

水温表示灯が青く点灯します。

2 冷却水の量を確認する

3 ラジエータコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給します。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- ●水温警告灯が赤色に点滅または点灯したり、エンジン出力が低下する
- ●エンジンルームから蒸気が出る

⚠ 警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- ●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトからはなしてください。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

手順 1 エンジンを停止する。

パーキングブレーキをかけシフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車は N にしてください。

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーをオートマチック車は D または R、マニュアル車は 1 速または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

TRC、S-VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または S-VSC を停止してください。（→P. 163）

⚠ 警告

■脱出するときは

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、ほかの車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶シフトレバーが N に入った場合

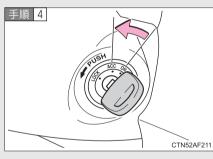
手順 3 減速後、車を安全な道路脇に止める。

手順 4 エンジンを停止する。

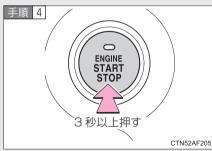
▶シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4

CTN52AF211

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジン スイッチを“ ACC ”にして、エンジンを停止する。

手順 4

CTN52AF205

スマートエントリー&スタートシステム装着車：“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを 3 秒以上押し続けてエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に止める。

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

- ●ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。
- ●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

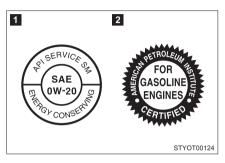
指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	32

エンジンオイル

<table>
<tr><th rowspan="2">銘柄</th><th rowspan="2">エンジン</th><th colspan="2">容量 [L]（参考値）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td rowspan="2">トヨタ純正モーターオイル　SM 0W-20 ※
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 0W-20
トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 5W-30
トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30
—API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 10W-30
トヨタ純正モーターオイル　SL 5W-20
—API SL, EC SAE 5W-20
トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30
—API SL, EC SAE 10W-30</td><td>1KR-FE</td><td>2.9</td><td>3.1</td></tr>
<tr><td>1NR-FE</td><td>3.3</td><td>3.5</td></tr>
</table>

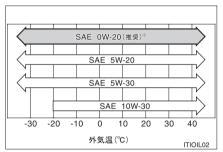
※ 0W-20は最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック認証）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

● オイル粘度表示の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

● 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。
粘度の高いオイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	1KR-FE	4.5
	1NR-FE (オートマチック車)	4.9
	1NR-FE (マニュアル車)	4.7

オートマチックトランスミッション

銘柄	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正 CVT フルード　TC	6.37

※　交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

マニュアルトランスミッション

銘柄	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正マニュアル トランスミッション ギヤオイル LV (API GL-4 SAE 75W)	2.4

※　交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※ 1 ▶リヤドラムブレーキ装着車 ▶リヤディスクブレーキ装着車	 88 以上 83 以上

※ 1 エンジン回転時に 300 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ※ 2 数 ▶リヤドラムブレーキ装着車 ▶リヤディスクブレーキ装着車	 6 ～ 9 5 ～ 8

※ 2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

V リブベルト

項目	基準値 [mm]
たわみ量 ▶ 1KR-FE エンジン搭載車 押力 98 N (10 kgf) (冷間時)	1 6.5 ～ 7.5 2 10 ～ 12
たわみ量 ▶ 1NR-FE エンジン搭載車 押力 98 N (10 kgf) (冷間時)	10 ～ 12

クラッチペダル

■ クラッチフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500 H

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5 ～ 15
切れたときの床板とのすき間※3	25mm 以上

※3 クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
2.3

タイヤとホイール

■ タイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
	前輪	後輪
175/65R15 84S	230 (2.3)	220 (2.2)
175/60R16 82H		

■ ホイール

ホイールサイズ
15 x 5J, 16 x 5J

警告

■タイヤとホイール交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、タイヤ周辺部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト （ディスチャージヘッドライト* バルブタイプ：D4S）	35
	ヘッドライト （ハロゲンヘッドライト* バルブタイプ：ＨＩＲ ２）	55
	車幅灯	5
	フロントフォグライト*	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯＆尾灯	LED ※
	後退灯	21
	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	インテリアライト	LED ※

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
KGJ10	1KR-FE （1.0L ガソリン）	FF（前輪駆動）
NGJ10	1NR-FE （1.3L ガソリン）	

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="5">スマートエントリー&スタートシステム*
(→P. 29)</td><td>スマートエントリー&スタートシステム</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>作動の合図（非常点滅灯）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>作動の合図（ブザー）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">作動の合図（ブザー音量調整）</td><td rowspan="2">レベル7</td><td>レベル1～6</td></tr>
<tr><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="8">ワイヤレスドアロック
(→P. 39)</td><td>ワイヤレス機能</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間</td><td rowspan="2">30秒</td><td>60秒</td></tr>
<tr><td>120秒</td></tr>
<tr><td>作動の合図（非常点滅灯）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>作動の合図（ブザー）（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">作動の合図（ブザー音量調整）（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）</td><td rowspan="2">レベル7</td><td>レベル1～6</td></tr>
<tr><td>なし</td></tr>
<tr><td>半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
</table>

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ライト自動点灯・消灯システム （→P. 147）	ライトセンサーの感度調整	レベル３	レベル１～５
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め
イルミネーション （→P. 222）	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	エンジン スイッチ“ LOCK ”後の作動（スマートエントリー&スタートシステム非装着車のみ） “ エンジン スタート ストップ ”スイッチ OFF 後の作動（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	あり	なし

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

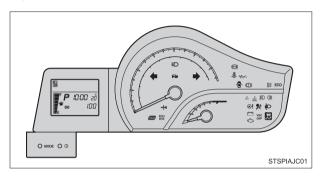
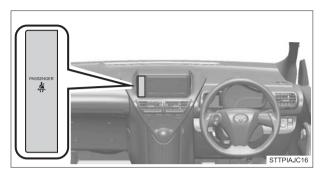
し

す

症状別さくいん

警告灯が点灯、点滅した

P. 303 警告灯がついたときは

■ メーター

STSPIAJC01

■ センターパネル

▶ オーディオ装着車

STTPIAJC15

▶ オーディオ非装着車

■警告灯一覧

PASSENGER または PASSENGER

スリップ警告灯 および VSC OFF

＊：スリップ警告灯は点灯し、VSC OFF 警告灯は点滅します

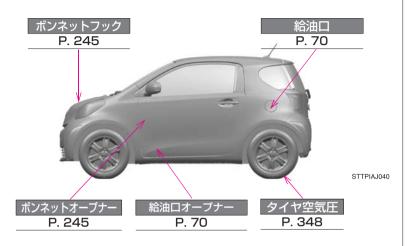
警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅をご確認ください。

■警告灯が点灯、点滅していないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことをご確認ください。

<table>
<tr><th>お車の状況</th><th>鳴ったときの状況</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">停車／駐車中</td><td>ドアを開けたとき</td><td>P. 36、114、148</td></tr>
<tr><td>車外に出たとき</td><td rowspan="2">P. 36</td></tr>
<tr><td>スマートエントリー&スタートシステムでロックセンサー部にふれたとき</td></tr>
<tr><td rowspan="3">走行中</td><td>シフトレバーを R にしたとき</td><td>P. 124</td></tr>
<tr><td>ブレーキを踏んだとき</td><td>P. 112</td></tr>
<tr><td>走行しているとき</td><td>P. 303、305</td></tr>
</table>

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 (参考値)	32L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン　P. 71, 342
タイヤが冷えているときの空気圧	前輪：230 (2.3) kPa (kg/cm^2) 後輪：220 (2.2) kPa (kg/cm^2)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 1KR-FE エンジン車：2.9 L 1NR-FE エンジン車：3.3 L オイルとフィルター交換時 1KR-FE エンジン車：3.1 L 1NR-FE エンジン車：3.5 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・ SM 0W-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) ・ SM 10W-30(API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL, EC SAE 5W-20) ・ SL 10W-30(API SL, EC SAE 10W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp